

# 「FXクラウドシリーズ」

---

マネジメントレポート設計ツール利用マニュアル

第10版



# 目次

<b>I. 機能概要</b> .....	<b>4</b>
1. 特長 .....	4
2. 機能概要 .....	5
<b>II. 事前準備</b> .....	<b>7</b>
1. 動作環境 .....	7
2. マネジメントレポート設計ツールの登録 .....	8
3. ユーザIDごとの「業務範囲」の確認 .....	9
4. 「業務範囲」の確認・変更 .....	9
<b>III. 基本操作</b> .....	<b>10</b>
1. 基本操作 .....	10
<b>IV. マスター情報の配置</b> .....	<b>13</b>
1. 機能概要 .....	13
2. 会社 .....	14
3. 勘定科目 .....	15
4. 部門 .....	19
5. 取引先 .....	20
6. 利益管理表項目 .....	22
7. 従事員数等 .....	26
8. 工事（※DAIC2クラウド専用） .....	27
9. 配賦グループ（※DAIC2クラウド専用） .....	30
10. 工種（※DAIC2クラウド専用） .....	31
<b>V. マスター関数の挿入</b> .....	<b>32</b>
1. 機能概要 .....	32
2. 工事マスター（※DAIC2クラウド専用） .....	33
3. 配賦グループマスター（※DAIC2クラウド専用） .....	34
<b>VI. マネジメントレポート設計ツール特有の関数</b> .....	<b>35</b>
1. 機能概要 .....	35
2. 表(配列数式)として数式を記述する方法 .....	38
3. 関数の詳細（関数ライブラリの一覧と引数） .....	41
4. 作成例（部門業績比較表） .....	63
5. 作成例（工事粗利益一覧表）（※DAIC2クラウド専用） .....	66
<b>VII. FX2から移行した場合の注意点（お願い）</b> .....	<b>75</b>
1. FX2利用時に作成したファイルのメンテナンス .....	75
<b>VIII. 利用上の注意点</b> .....	<b>83</b>



# I. 機能概要

## 1. 特長

(1) マネジメントレポート設計ツールは、Excel で動作する Excel アドイン (Excel の追加拡張機能) です。当ツールを利用することにより、以下の内容を実現できます。

- ①Excel に F Xクラウドシリーズのデータの内容を出力できるため、Excel 上で最新の業績を確認できます。
- ②帳表作成時における工数や、データ加工時の集計ミスなどのリスクを低減できます。

(2) マネジメントレポート設計ツールをインストールすると、実績や予算などの F Xクラウドシリーズのデータを取得する特有の関数を、Excel に挿入できるようになります。この関数を利用して取得した実績や予算は、その時点での最新のデータです。そのため、F Xクラウドシリーズ本体を起動することなく、Excel 上で最新の業績を確認できます。

- ①F X 2クラウド、F X 2農業会計クラウドの関与先で利用する場合



- ②DAIC 2クラウドの関与先で利用する場合 (※専用関数として「建設用関数ライブラリ」を表示します)



- ③MX 2クラウドの関与先で利用する場合 (※専用関数として「合計部門用関数ライブラリ」「医業用関数ライブラリ」を表示します)



(3) マネジメントレポート設計ツール特有の関数と Excel の標準機能(罫線など)を併用して帳表を作成できます。このため、マネジメントレポート設計ツールを利用して帳表を一度作成すれば、その後メンテナンスすることなく、最新のデータを Excel で確認できるようになります。

## 2. 機能概要

### (1) Excel へのマスターの配置機能

- ①マスター情報（勘定科目コードや勘定科目名）を、任意のセルに配置できます。
- ②マスター情報を配置する際、配置する方向（縦方向又は横方向）を選択することができます。当機能を利用することで、タイトル行やタイトル列が作成できます。

	A	B	C	D	E	F	G
1			A11	A12	A13	A14	A15
2			札幌営業所	弘前営業所	盛岡営業所	秋田営業所	山形営業所
3	1111	現金					
4	1112	当座預金					
5	1113	普通預金					
6	1114	定期預金					
7	1115	通知預金					
8	1116	譲渡性預金					
9	1121	受取手形					
10	1122	売掛金					
11	1125	有価証券					

「縦方向」に配置

「横方向」に配置

### (2) 特有の関数による最新データの取得機能

- ①マネジメントレポート設計ツール特有の関数を利用して、残高や発生額などの値を取得することができます。
- ②関数の引数に、コードなどのマスター情報を配置したセルの値をセットすることで、より簡単に帳表を作成できます。
- ③マネジメントレポート設計ツール特有の関数を埋め込んだファイルを起動すると、起動のタイミングで、データベースから最新の値が集計されます。そのため、残高等の変更があっても、関数のメンテナンスをすることなく、最新の値が取得できます。

	A	B	C	D	E	F	G
1			A11	A12	A13	A14	A15
2			札幌営業所	弘前営業所	盛岡営業所	秋田営業所	山形営業所
3	1111	現金	1000000	1100000	1200000	1150000	900000
4	1112	当座預金	2000000	2200000	2400000	2300000	1800000
5	1113	普通預金	3100000	3410000	3720000	3565000	2790000
6	1114	定期預金	800000	880000	0	0	540000
7	1115	通知預金	0	0	0	0	0
8	1116	譲渡性預金	0	0	0	0	0
9	1121	受取手形	0	0	0	0	420000
10	1122	売掛金	6200000	6820000	7440000	7130000	5580000
11	1125	有価証券	0	0	0	0	0

引数

最新の実績

- ④なお、各ユーザの設定において「利用可能な会社」に該当しない会社の場合、当該会社のデータを出力しようとしても、データは表示されません。（セルには「#VALUE」などの文字が出力されます）

### (3) Excel の標準機能との併用

- ①Excel の標準の関数と、マネジメントレポート設計ツール特有の関数を組み合わせて利用できます。マネジメントレポート設計ツールの関数を利用して取得した値に四則演算を行うことや、平均値を求めることが可能です。
- ②罫線を引くことやマネジメントレポート設計ツールを利用して取得した値をもとにグラフを作成することもできます。そのため、各種報告資料の作成業務の標準化が図れます。

	A	B	C	D	E	F	G
1		部門	A11		A12		A13
2	科目		札幌営業所	構成比	弘前営業所	構成比	盛岡営業所
3	1111	現金	1,000,000	7.8%	1,100,000	8.6%	1,200,000
4	1112	当座預金	2,000,000	7.6%	2,200,000	8.4%	2,400,000
5	1113	普通預金	3,100,000	7.4%	3,410,000	8.1%	3,720,000
6	1114	定期預金	800,000	14.0%	880,000	15.4%	0
7	1115	通知預金		0.0%		0.0%	0
8	1116	譲渡性預金		0.0%		0.0%	0
9	1121	受取手形		0.0%		0.0%	0
10	1122	売掛金	6,200,000	7.8%	6,820,000	8.6%	7,440,000
11	1125	有価証券		0.0%		0.0%	0

Excel の標準の関数も同時に利用可能

### (4) 報告用ファイルの作成機能

- ①マネジメントレポート設計ツール特有の関数が埋め込まれたファイルを起動しようとする時、FXクラウドシリーズのユーザ ID 及びパスワードの入力画面が表示されます。このため、FXクラウドシリーズの利用者でなければ最新の業績が確認できない旨のセキュリティが確保できる反面、FXクラウドシリーズは利用しないが帳表は電子データで確認するといった人は当該ファイルを利用できません。
- ②このようなケースを想定し、報告用のファイルを別途作成できる機能が設けられています。当機能を利用して作成した報告用のファイルの場合、もともとマネジメントレポート設計ツールの関数を埋め込んだセルには、関数ではなく、取得した値そのものがセットされます。このため、報告用のファイルであれば、FXクラウドシリーズの利用者ではなくとも、金額等が確認できます。
- ③なお、報告用のファイルにはマネジメントレポート設計ツールの関数はセットされていないため、FXクラウドシリーズのデータが変更されても、当該ファイルにはその旨は反映されません。

## Ⅱ. 事前準備

### 1. 動作環境

マネジメントレポート設計ツールは、FXクラウドシリーズをご利用中のパソコンにインストールして利用します。なお、当該パソコンにExcelがインストールされている必要があります。

行	項目	内容
1	OS	Windows 11/10
2	必要なコンポーネント	<ul style="list-style-type: none"><li>• .NET Framework 4.5.1 以降</li><li>• Visual Studio 2010 Tools for Office Runtime</li></ul>
3	Excel	Excel 2021/2019/2016 ※以下のオプションが有効となっている必要があります。 (2021、2019、2016 共通) <ul style="list-style-type: none"><li>• [Microsoft Office Excel]-[.NET プログラミング サポート]</li><li>• [Office 共有機能]-[Visual Basic for Applications]</li></ul> (上記オプションはインストール オプションに [完全] を選択すれば自動的にインストールされます)

## 2. マネジメントレポート設計ツールの登録

(1) ハンバーガーメニューで「ダウンロード」をクリックします。



(2) 「マネジメントレポート設計ツール」の「ダウンロード」ボタンをクリックします。「正常に登録されました。」と表示されたら「OK」ボタンをクリックしてください。



### 3. ユーザIDごとの「業務範囲」の確認

「ユーザ権限」でユーザIDごとの「業務範囲名」を確認します。

ホーム > ユーザ権限 システム終了

ユーザID 堤 敬士

業務範囲名 管理者

OK キャンセル

### 4. 「業務範囲」の確認・変更

「業務範囲」でマネジメントレポート設計ツールの権限を確認します。チェックがついていない場合はチェックをつけます。

ホーム > 業務範囲 システム終了

コード 002

業務範囲名 経営者

メニューごとの権限	メニュー	参照	更新	出力
<input checked="" type="checkbox"/>	システム情報	<input checked="" type="checkbox"/>	-	-
<input checked="" type="checkbox"/>	取引先	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	部門	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	-
<input type="checkbox"/>	勘定科目	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input type="checkbox"/>	科目別課税区分	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	資金相手科目	<input checked="" type="checkbox"/>	-	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	利益管理表	<input checked="" type="checkbox"/>	-	-
<input type="checkbox"/>	仕訳辞書	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	従業員数等	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	-
<input type="checkbox"/>	月次定型仕訳	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	-
<input checked="" type="checkbox"/>	その他	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>
<input checked="" type="checkbox"/>	マネジメントレポート設計ツール	-	-	<input checked="" type="checkbox"/>

OK キャンセル

# Ⅲ. 基本操作

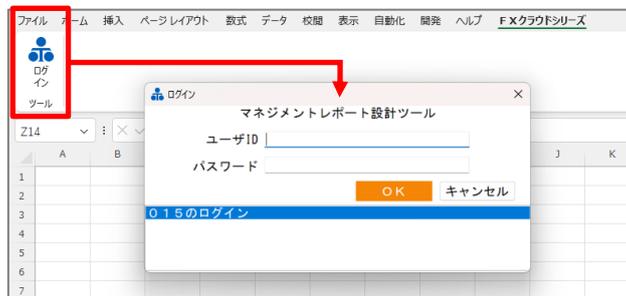
## 1. 基本操作

### (1) 起動とログイン

①マネジメントレポート設計ツールをインストールすると、Excel にタブ「F Xクラウドシリーズ」が登録されます。このタブ「F Xクラウドシリーズ」内の各メニューを利用します。



②タブ「F Xクラウドシリーズ」の「ログイン」をクリックすると、F Xクラウドシリーズのログイン画面が起動します。ユーザ ID 及びパスワードを入力します。複数社利用している場合は会社ごとにユーザ ID 及びパスワードを入力します。



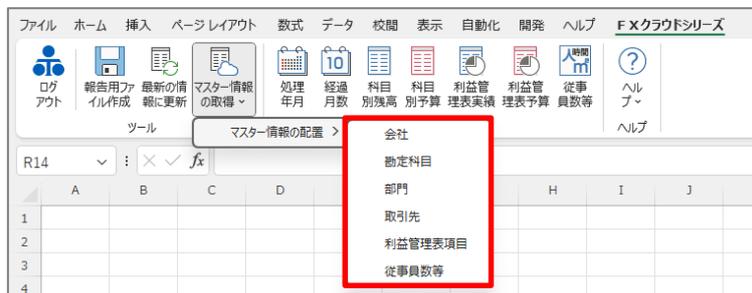
③マネジメントレポート設計ツールの各メニューが表示されます。



### (2) マスター情報の取得

#### ①マスター情報の配置

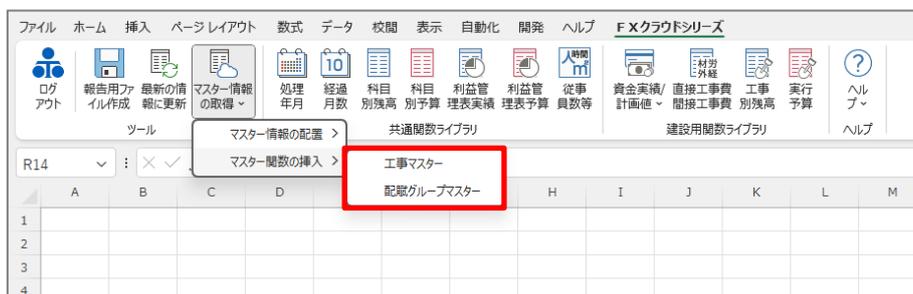
1)タブ「F Xクラウドシリーズ」の「マスター情報の取得」から「マスター情報の配置」をクリックすると、左のメニューが表示されます。これらのメニューで、マスター情報の配置機能を利用できます。



2)挿入できるマスターは以下の9項目です。

- ・会社
- ・勘定科目
- ・部門
- ・取引先
- ・利益管理表項目
- ・従事員数等
- ・工事 (※DA I C 2クラウド専用)

- ・配賦グループ (※DAIC 2クラウド専用)
  - ・工種 (※DAIC 2クラウド専用)
- ②マスター関数の挿入 (※DAIC 2クラウド専用)
- 1) タブ「FXクラウドシリーズ」の「マスター情報の取得」から「マスター関数の挿入」をクリックすると、左のメニューが表示されます。



2) 「マスター関数の挿入」は、「マスター情報の配置」機能を拡張したもので、任意のセルにこのマスター関数を挿入することで、ファイルを開くごとに条件に合致したマスター情報を自動で取得することができます。この機能と後述する「特有の関数による最新データの再取得機能」の「処理年月」関数を組み合わせることで、処理月と取得条件に応じたマスター情報を動的に表示できます。

3) 挿入できるマスター関数は以下の2項目です。

- ・工事マスター
- ・配賦グループマスター

### (3) 関数の挿入

タブ「FXクラウドシリーズ」の「共通関数ライブラリ」に配置されている、メニュー「処理年月」～「従事員数等」を利用して、マネジメントレポート設計ツール特有の関数を挿入できます。

また、DAIC 2クラウドやMX 2クラウドでは、「建設用関数ライブラリ」「合計部門用関数ライブラリ」「医業用関数ライブラリ」から、各業種の専用関数を利用できます。



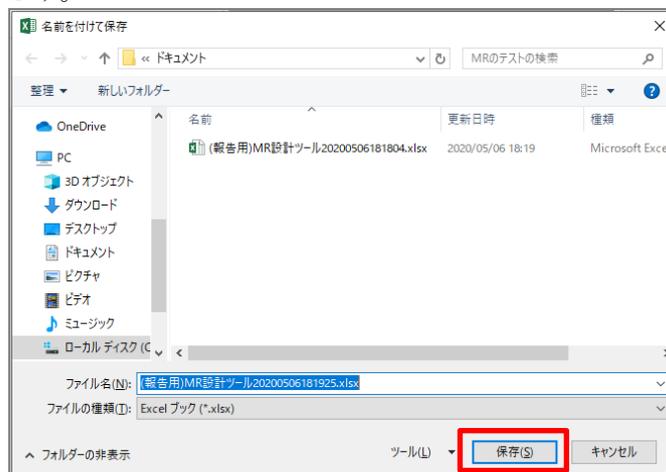
### (4) 最新の情報に更新

現在利用中のマネジメントレポートの内容を最新の情報に更新します。「最新の情報に更新」をクリックすると、データベースから最新のデータが集計され、再計算処理が実行されます。



## (5) 報告用ファイルの作成

- ①タブ「FXクラウドシリーズ」のメニュー「報告用ファイル作成」をクリックすると、「名前を付けて保存」画面が表示されます。当画面で任意のファイル名を入力し、報告用ファイルを別途保存します。
- ②なお、作成したマネジメントレポートの保存は、通常のExcelファイルの保存方法と同様、「ファイル」の「保存」等から行います。



# IV. マスター情報の配置

## 1. 機能概要

- (1) 勘定科目などのマスターの内容（コードや勘定科目名など）を、Excel に出力できます。
- (2) マスターの配置機能を利用することにより、マネジメントレポート設計ツールの列や行のタイトルなどを作成できるほか、実績や予算を取得する関数の引数に利用できます。このため、当機能を利用することにより、簡単にマネジメントレポートを作成することができます。
- (3) マスターの配置機能を利用し、Excel に配置可能なマスター及び出力内容は以下の通りです。

### ①全システム共通

行	マスター名	出力内容
1	会社	「会社コード」及び「会社名」を出力できます。
2	勘定科目	「勘定科目コード」及び「勘定科目名」を出力できます。 選択により、「補助コード」、「口座名」、「取引先コード」、「取引先名」を出力することもできます。
3	部門	「部門コード」及び「部門名」を出力できます。
4	取引先	「取引先コード」及び「取引先名」を出力できます。
5	利益管理表項目	「利益管理表項目コード」及び「利益管理表項目名」を出力できます。
6	従業員数等	「単位数量名」を出力できます。

### ②DAIC2クラウド専用（※DAIC2クラウドの関与先で利用する場合に表示されます）

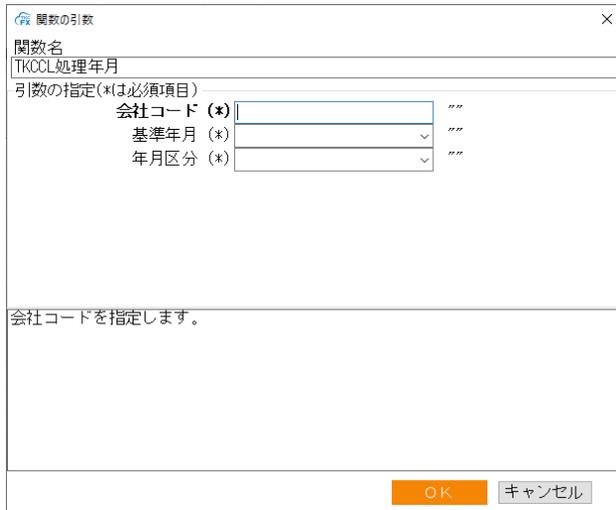
行	マスター名	出力内容
1	工事	「工事番号」、「工事正式名」を含む、38項目の工事詳細情報を出力できます。 対象となる工事は「未成工事」、「完成工事」、「履歴工事」から選択することができます。
2	配賦グループ	「配賦グループコード」、「配賦グループ名」を出力できます。
3	工種	「工種大分類コード」、「工種大分類名」、「工種小分類コード」、「工種小分類名」を出力できます。

- (4) マスターの配置機能は、機能を実行した時点のマスター情報を出力するものです。関数とは異なり、Excel 起動等の都度、FXクラウドシリーズのデータベースからデータを取得する機能ではありません。このため、FXクラウドシリーズでマスターの追加・修正を行っても、作成したマネジメントレポートにマスターの変更内容は反映されませんので、ご注意ください。

## 2. 会社

当機能により、関与先コード及び商号をセルに配置できます。

### (1) 処理の流れ



「マスター情報の取得」→「マスター情報の配置」ボタンをクリックして「会社」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。Excelに配置する会社を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。

### (2) 方向の指定

会社コード及び会社名を縦方向に配置する場合は、「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を、横方向に配置する場合は「横方向に配置」を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。

縦方向に配置するように指定した場合、選択中のセルの列に会社コードが、1列右の列に会社名が、配置されます。一方、横方向に配置するように指定した場合は、選択中のセルの行に会社コードが、1行下の行に会社名が配置されます。

### 3. 勘定科目

当機能により、勘定科目コード、勘定科目名をセルに配置します。また、勘定科目ごとの残高管理対象の口座、取引先のコードや名称をセルに配置することもできます。

#### (1) 処理の流れ

会社の選択	
コード	商号
215	ABC株式会社
217	株式会社TKC食品

「マスター情報の取得」-「マスター情報の配置」ボタンをクリックして「勘定科目」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の勘定科目等を配置するのかが選択されます。なお、当画面はFXクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

株式会社TKC食品

勘定科目の抽出条件

貸借対照表科目

損益計算書科目(製造原価科目を除く)

製造原価科目

合計科目のみ抽出する

減算マーク(Δ)を出力する

次に、「勘定科目の抽出条件の指定」画面が表示されます。当画面でExcelに配置する勘定科目の抽出条件を指定します。

「合計科目のみ抽出する」欄にチェックを付けると、「当座資産計」や「流動資産計」などの合計科目のみ次の「配置する勘定科目の選択」画面で選択対象の勘定科目として表示されます。

株式会社TKC食品

全選択 全解除

配置する勘定科目の選択

1111 現金

1112 当座預金

1113 普通預金

1114 定期預金

1115

1116

1101 現預金小計

1121 受取手形

1124 電子記録債権

1122 売掛金

1123

1125 有価証券

1126 その他の当座資産

「勘定科目の抽出条件の指定」画面で、抽出する勘定科目の条件を指定し、「次へ」ボタンをクリックすると、「配置する勘定科目の選択」画面が表示されます。当画面には、「勘定科目の抽出条件の指定」画面で指定した条件に該当する勘定科目のみが表示されます。

株式会社TKC食品

内訳の配置

口座を配置する

取引先を配置する

出力方式

内訳方式  並列方式

コード及び名称の配置方向

縦方向に配置  横方向に配置

「配置する勘定科目の選択」画面で、配置する勘定科目を指定し、「次へ」ボタンをクリックすると、「内訳の配置の有無」画面が表示されます。当画面で口座、取引先の配置の有無を選択し、「配置開始」ボタンをクリックすると、選択した勘定科目のコード及び名称をはじめ、条件により、口座、取引先のコード及び名称などを配置することができます。なお、画面と同様に、減算科目については、名称の後ろに「(Δ)」が付いた状態で配置されます。

なお、MX2クラウドの場合は、上記に加えて、保自区分を配置することができます。

## (2) 口座と取引先の配置

「内訳の配置の有無」画面で、「口座を配置する」欄にチェックを付けて「配置開始」ボタンをクリックすると、勘定科目コード及び勘定科目名に加えて、補助コード及び口座名も配置されます。同様に、「取引先を配置する」欄にチェックを付けて「配置開始」ボタンをクリックすると、勘定科目コード及び勘定科目名に加えて、取引先コード及び取引先名も配置されます。「口座を配置する」欄及び「取引先を配置する」欄の両方にチェックを付けて「配置開始」ボタンをクリックすると、勘定科目コード、勘定科目名、補助コード、口座名、取引先コード、取引先名の6項目が配置されます。

なお、配置される口座・取引先は、勘定科目ごとの残高管理対象のものに限られます。

<例（すべて並列方式による配置）>

- ・「口座を配置する」欄のみにチェックを付けた場合

1121	受取手形	A	手持				
1121	受取手形	B	割引				
1121	受取手形	C	裏書				
1122	売掛金						
1125	有価証券	A	売買目的				
1125	有価証券	B	その他				

- ・「取引先を配置する」欄のみにチェックを付けた場合

1121	受取手形						
1122	売掛金	000001	A社				
1122	売掛金	000002	B社				
1125	有価証券						

- ・両方にチェックを付けた場合

1121	受取手形	A	手持				
1121	受取手形	B	割引				
1121	受取手形	C	裏書				
1122	売掛金			000001	A社		
1122	売掛金			000002	B社		
1125	有価証券	A	売買目的				
1125	有価証券	B	その他				

#### (4) 内訳方式と並列方式

「内訳の配置の有無」画面で、口座・取引先の出力方式として、「内訳方式」と「並列方式」が選択できます。「内訳方式」を選択した場合、勘定科目の行（又は列）が配置された後に、口座や取引先の行（又は列）が配置されます。一方、「並列方式」を選択した場合、口座や取引先が配置される勘定科目の場合は、勘定科目の行（又は列）は配置されず、内訳の行（又は列）のみが配置されます。

<例>

##### ・「内訳方式」の場合

1121	受取手形						
1121	受取手形	A	手持				
1121	受取手形	B	割引				
1121	受取手形	C	裏書				
1122	売掛金						
1122	売掛金			000001	A社		
1122	売掛金			000002	B社		
1125	有価証券						
1125	有価証券	A	売買目的				
1125	有価証券	B	その他				

##### ・「並列方式」の場合

1121	受取手形	A	手持				
1121	受取手形	B	割引				
1121	受取手形	C	裏書				
1122	売掛金			000001	A社		
1122	売掛金			000002	B社		
1125	有価証券	A	売買目的				
1125	有価証券	B	その他				

(5) 方向の指定

「内訳の配置の有無」画面の「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を選択すると、勘定科目コードや勘定科目名などを縦方向に配置することができ、「横方向に配置」を選択すると、勘定科目コードや勘定科目名などを横方向に配置できます。

<例（すべて並列方式による配置）>

・「縦方向に配置」の場合

1121	受取手形	A	手持				
1121	受取手形	B	割引				
1121	受取手形	C	裏書				
1122	売掛金			000001	A社		
1122	売掛金			000002	B社		
1125	有価証券	A	売買目的				
1125	有価証券	B	その他				

・「横方向に配置」の場合

1121	1121	1121	1122	1122	1125	1125
受取手形	受取手形	受取手形	売掛金	売掛金	有価証券	有価証券
A	B	C			A	B
手持	割引	裏書			売買目的	その他
			000001	000002		
			A社	B社		

## 4. 部門

当機能により、部門コード、部門名をセルに配置します。

### (1) 処理の流れ

コード	商号
215	ABC株式会社
217	株式会社TKC食品

「マスター情報の取得」→「マスター情報の配置」ボタンをクリックして「部門」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の部門を配置するのかが選択します。なお、当画面はFXクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

コード	名称
<input type="checkbox"/> 000	共通部門
<input type="checkbox"/> 001	営業部門
<input type="checkbox"/> 002	製造部門
<input type="checkbox"/> 003	受託部門

次に「配置する部門の選択」画面で、Excelに配置する部門を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。これにより、選択した部門のコード及び名称がセルに配置されます。

### (2) 方向の指定

部門コード及び部門名を縦方向に配置する場合は、「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を、横方向に配置する場合は「横方向に配置」を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。

縦方向に配置するように指定した場合、選択中のセルの列に部門コードが、1列右の列に部門名が、配置されます。一方、横方向に配置するように指定した場合は、選択中のセルの行に部門コードが、1行下の行に部門名が配置されます。

<例>

#### ・「縦方向に配置」の場合

000	本社		
001	第1営業部		
002	第2営業部		

#### ・「横方向に配置」の場合

000	001	002	
本社	第1営業部	第2営業部	

## 5. 取引先

当機能により、取引先コード、取引先名をセルに配置します。

### (1) 処理の流れ

「マスター情報の取得」-「マスター情報の配置」ボタンをクリックして「取引先」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の取引先を配置するのかが選択します。なお、当画面はF Xクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

次に「取引先の抽出条件の指定」画面が表示されます。当画面でExcelに配置する取引先の抽出条件を指定します。

「取引先の抽出条件の指定」画面で、抽出する取引先の条件を指定し、「次へ」ボタンをクリックすると、「配置する取引先の選択」画面が表示されます。当画面には、「取引先の抽出条件の指定」画面で指定した条件に該当する取引先のみが表示されます。

「配置する取引先の選択」画面で、Excelに配置する取引先を選択し、「配置開始」ボタンをクリックすると、選択した取引先のコード及び名称がセルに配置されます。

## (2) 方向の指定

取引先コード及び取引先名を縦方向に配置する場合は、「配置する取引先の選択」画面の「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を、横方向に配置する場合は「横方向に配置」を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。

縦方向に配置するように指定した場合、選択中のセルの列に取引先コードが、1列右の列に取引先名が配置されます。一方、横方向に配置するように指定した場合は、選択中のセルの行に取引先コードが、1行下の行に取引先名が配置されます。

<例>

- ・「縦方向に配置」の場合

100101	北陸運送		
100102	ミドリ化学工業 株式会社		
100103	武田商事 株式会社		
100104	松戸化学 株式会社		

- ・「横方向に配置」の場合

100101	100102	100103	100104
北陸運送	ミドリ化学工業 株式会社	武田商事 株式会社	松戸化学 株式会社

## 6. 利益管理表項目

当機能により、利益管理表項目コード、利益管理表項目名をセルに配置します。

### (1) 処理の流れ

「マスター情報の取得」→「マスター情報の配置」ボタンをクリックして「利益管理表項目」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の利益管理表項目を配置するかを選択します。なお、当画面はF Xクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

次に「配置する利益管理表項目の選択」画面が表示されます。当画面で、Excel に配置する利益管理表項目を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。これにより、選択した利益管理表項目のコード及び名称がセルに配置できます。

なお、画面と同様に、減算項目の場合は、名称の後ろに「(Δ)」が付いた状態で配置されます。

### (2) 方向の指定

利益管理表項目コード及び利益管理表項目名を縦方向に配置する場合は、「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を、横方向に配置する場合は「横方向に配置」を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。

縦方向に配置するように指定した場合、選択中のセルの列に利益管理表項目コードが、1列右の列に利益管理表項目名が、配置されます。一方、横方向に配置するように指定した場合は、選択中のセルの行に利益管理表項目コードが、1行下の行に利益管理表項目名が配置されます。

### (3) 利益管理表項目のコード

各システムの利益管理表項目のコードは、以下の値が付与されます。

#### ①FX2クラウド、FX2クラウド（個人用）

項目名(初期値)	付与されるコード
売上高1	111
売上高2	112
売上高3	113
売上高4<自家消費等>	114
売上値戻り高(△)	115
純売上高	110
期首棚卸高	211
商品仕入高1	221
商品仕入高2	222
商品仕入高3	223
商品仕入高4	224
仕入値戻り高(△)	225
材料仕入高1<原材料仕入高1>	226
材料仕入高2<原材料仕入高2>	227
仕入高合計	220
外注加工費<外注工賃>	231
外注加工費計<外注工賃計>	230
消耗品費	241
(空欄)	242
その他変動費	243
他の変動費計	240
月末棚卸高(△)	251
共通原価配賦	261
変動費合計	260
限界利益	200

項目名(初期値)	付与されるコード
役員報酬<専従者給与>	311
給与・賞与	312
福利厚生費等	313
人件費計	310
販売促進費	321
事務管理諸費	322
接待交際費	323
旅費交通費	324
他の製造経費	325
その他固定費	326
営業外損益	327
他の固定費計	320
部門固定費計	300
部門達成利益	610
減価償却費	411
地代家賃・賃借料	412
保険料・修繕費	413
設備費計	410
部門貢献利益	620
共通固定費配賦	421
部門貢献利益(配賦後)	630
棚卸高増減(△)	431
固定費合計	400
経常利益	500

(注) 山括弧内は、FX2クラウド（個人用）の場合の項目名（初期値）です。

FX2クラウド（個人用）の場合、「224 商品仕入高4」はありません。

#### ②FX2農業会計クラウド、FX2農業会計クラウド（個人用）

項目名(初期値)	付与されるコード
売上高1	111
売上高2	112
売上高3	113
売上高4	114
売上値戻り高(△)	115
純売上高	110
期首棚卸高	211
商品仕入高	221
材料仕入高1	222
材料仕入高2	223
材料仕入高3	224
材料仕入高4	225
材料仕入高5	226
材料仕入高6	227

項目名(初期値)	付与されるコード
役員報酬<専従者給与>	311
給与・賞与	312
福利厚生費等	313
人件費計	310
販売促進費	321
事務管理諸費	322
接待交際費	323
旅費交通費	324
他の製造経費<(空欄)>	325
その他固定費	326
営業外損益	327
他の固定費計	320
部門固定費計	300
部門達成利益	610

仕入高合計	220
外注加工費	231
外注加工費計	230
消耗品費	241
(空欄) <他の製造経費>	242
その他変動費	243
他の変動費計	240
月末棚卸高 (△)	251
共通原価配賦	261
変動費合計	260
限界利益	200

減価償却費	411
地代家賃・賃借料	412
保険料・修繕費	413
設備費計	410
部門貢献利益	620
共通固定費配賦	421
部門貢献利益(配賦後)	630
棚卸高増減 (△)	431
固定費合計	400
経常利益	500

(注) 山括弧内は、F X 2 農業会計クラウド (個人用) の場合の項目名 (初期値) です。  
F X 2 農業会計クラウド (個人用) の場合、「227 材料仕入高6」はありません。

### ③DAIC2クラウド

#### 1) 財務三表マスター

項目名(初期値)	付与されるコード
売上高 1	111
売上高 2	112
売上高 3	113
売上高 4	114
売上値引戻り高(△)	115
売上高	110
材料費	211
労務費	212
外注費	213
仮設経費	214
機械等経費	215
経費(人件費)	216
その他経費	217
変動工事費計	210
兼業売上原価	221
その他変動費	231
共通原価配賦	241
変動費合計	250
限界利益	200
直接工事費	311
間接工事費	312
固定工事費計	310
当期未成工事固定費	321

項目名(初期値)	付与されるコード
役員報酬	331
給与・賞与	332
福利厚生費等	333
販管人件費計	330
接待交際費	341
事務管理諸費	342
旅費交通費	343
支払利息	344
その他の固定費	345
他の固定費計	340
部門固定費計	300
部門達成利益	610
減価償却費	411
地代家賃	412
保険料	413
設備費計	410
部門貢献利益	620
共通固定費配賦	421
部門貢献利益(配賦後)	630
固定費合計	400
経常利益(直接原価法)	501
当期未成工事固定費(△)	502
経常利益	500

#### 2) 建設業会計マスター

項目名(初期値)	付与されるコード
完成工事高 1	111
完成工事高 2	112
兼業売上高 1	113
兼業売上高 2	114
(空欄)	115
売上高	110

項目名(初期値)	付与されるコード
役員報酬	331
給与・賞与	332
福利厚生費等	333
販管人件費計	330
接待交際費	341
事務管理諸費	342

材料費	211
労務費	212
外注費	213
仮設経費	214
機械等経費	215
経費(人件費)	216
その他経費	217
変動工事費計	210
兼業売上原価	221
その他変動費	231
共通原価配賦	241
変動費合計	250
限界利益	200
直接工事費	311
間接工事費	312
固定工事費計	310
当期未成工事固定費	321

旅費交通費	343
支払利息	344
その他の固定費	345
他の固定費計	340
部門固定費計	300
部門達成利益	610
減価償却費	411
地代家賃	412
保険料	413
設備費計	410
部門貢献利益	620
共通固定費配賦	421
部門貢献利益(配賦後)	630
固定費合計	400
経常利益(直接原価法)	501
当期未成工事固定費(△)	502
経常利益	500

#### ④MX 2クラウド

項目名(初期値)	付与されるコード
入院診療収益	101
室料差額収益	102
外来診療収益	103
保健予防活動収益	104
受託検査・施設利用収益	105
介護保健施設介護料収益	106
居宅介護料収益	107
居宅介護支援介護料収益	108
利用者等利用料収益	109
訪問看護療養費収益	110
訪問看護利用料収益	111
その他の医業収益	112
保険等査定減(△)	113
医業収益	100
医薬品材料仕入高	221
給食材料仕入高	222
その他の材料費等	223
棚卸高増減(△)	224
材料費	220
委託費	231
その他変動費	243
変動費合計	260
限界利益	200

項目名(初期値)	付与されるコード
役員報酬	311
給与・賞与	312
福利厚生費	313
退職金	314
(空欄)	315
その他人件費	316
人件費計	310
消耗品費	321
水道光熱費	322
広告宣伝費	331
接待交際費	332
租税公課	333
研究研修費	334
(空欄)	335
その他経費	336
他の固定費	330
減価償却費	411
賃借料・地代	412
修繕費・その他設備費	413
設備費	410
医業外収益	431
医業外費用	432
固定費合計	400
経常利益	500

## 7. 従事員数等

当機能により、単位数量をセルに配置します。

### (1) 処理の流れ

会社の選択	
コード	商号
215	ABC株式会社
217	株式会社TKC食品

「マスター情報の取得」→「マスター情報の配置」ボタンをクリックして「従業員数等」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の従事員数等を配置するのかが選択します。なお、当画面はFXクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

ABC株式会社	
配置する単位数量の選択	
<input checked="" type="checkbox"/>	月末従事員数
<input type="checkbox"/>	販売員数

次に「配置する単位数量の選択」画面が表示されます。当画面で、Excel に配置する単位数量を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。これにより、選択した単位数量の名称がセルに配置できます。

### (2) 方向の指定

単位数量の名称を縦方向に配置する場合は、「名称の配置方向」欄で「縦方向」を、横方向に配置する場合は「横方向に配置」を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。

縦方向に配置するように指定した場合、選択中のセルの列に単位数量の名称が配置されます。一方、横方向に配置するように指定した場合は、選択中のセルの行に単位数量の名称が配置されます。

## 8. 工事 (※DAIC2クラウド専用)

当機能により、工事番号、工事正式名を含む、38項目の工事詳細情報をセルに配置します。  
なお、対象となる工事は未成工事、完成工事、履歴工事から選択することができます。

### (1) 処理の流れ

コード	商号
012	株式会社 TKC建設
215	株式会社 TKC食品

「マスター情報の取得」－「マスター情報の配置」をクリックして「工事」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の工事を配置するのかが選択します。なお、当画面はFXクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

株式会社 TKC建設

工事の抽出条件

- 未成工事
- 完成工事
- 履歴工事

次に「工事の抽出条件の指定」画面が表示されます。当画面でExcelに配置する工事の抽出条件(未成工事、完成工事、履歴工事)を指定します。

株式会社 TKC建設

全選択 全解除

配置する工事の選択

- 10000000 清水地区道路改修工事
- 20050601 柳瀬海浜公園施設設置工事
- 20050602 国道3号道路改修工事
- 20050603 セントラルビル屋上緑化工事
- 20050604 鶴田川新橋橋梁下部工事
- 20050701 宇都宮インテリア新ビル新築主体工
- 20050702 那須工場跡解体撤去工事
- 20050703 旭地区下水道工事
- 20050801 国道4号道路改修工事
- 20050802 きぬがわ銀行外壁劣化改修工事
- 20050803 市民交流プラザ増築改修工事
- 20050804 東西百貨店駐車場改修工事
- 20050901 県庁前広場路面改良工事
- 20050902 東西百貨店屋上駐車場改修工事

「工事の抽出条件の指定」画面で、抽出する工事の条件を指定し、[次へ]ボタンをクリックすると、「配置する工事の選択」画面が表示されます。当画面には、「工事の抽出条件の指定」画面で指定した条件に該当する工事のみが表示されます。

株式会社 TKC建設

全選択 全解除

配置する工事詳細情報の選択

- 工事番号
- 工事正式名
- 工事名
- 受注先コード
- 受注先名
- 工事の種類コード
- 工事の種類名
- 都道府県
- 市区町村
- 住所
- 未成・完成区分
- 収益計上区分
- 契約日

コード及び名称の配置方向

縦方向に配置  横方向に配置

「配置する工事の選択」画面で、配置する工事を選択し、[次へ]ボタンをクリックすると、「配置する工事詳細情報の選択」画面が表示されます。当画面で工事詳細情報を選択し、[配置開始]ボタンをクリックすると、工事名、工事正式名などの、DAIC2クラウドのメニュー「工事」で登録可能な、38項目の工事詳細情報を配置することができます。なお、工事番号と工事正式名はチェックが付いた状態で初期表示されます。

(2) 工事詳細情報

選択可能な工事詳細情報（38項目）は以下のとおりです。

行	工事詳細情報	メニュー [工事] で 当該項目が配置されたカテゴリー
1	工事番号	基本情報
2	工事正式名	基本情報
3	工事名	基本情報
4	受注先コード	基本情報
5	受注先名	基本情報
6	工事の種類コード	基本情報
7	工事の種類名	基本情報
8	都道府県	工事場所
9	市区町村	工事場所
10	住所	工事場所
11	未成・完成区分	未成・完成区分、収益計上区分
12	収益計上区分	未成・完成区分、収益計上区分
13	契約日	工期
14	契約着工日	工期
15	契約竣工予定日	工期
16	社内竣工予定日	工期
17	竣工引渡日	工期
18	請負金額(税込み)	請負金額等
19	請負金額(税抜き)	請負金額等
20	部門コード	部門
21	部門名	部門
22	担当者コード1	担当者
23	担当社名1	担当者
24	担当者割合1	担当者
25	担当者コード2	担当者
26	担当社名2	担当者
27	担当者割合2	担当者
28	担当者コード3	担当者
29	担当社名3	担当者
30	担当者割合3	担当者
31	配賦グループコード	間接工事費の配賦
32	配賦グループ名	間接工事費の配賦
33	売上計上科目コード	売上計上科目等
34	売上計上科目名	売上計上科目等
35	民間・公共区分	用途等、受注区分
36	特命・入札区分	用途等、受注区分
37	下請・元請区分	用途等、受注区分
38	ジョイント区分	用途等、受注区分

### (3) 方向の指定

「配置する工事の選択」画面の「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を選択すると、工事番号や工事正式名などを縦方向に配置することができ、「横方向に配置」を選択すると、工事番号や工事正式名などを横方向に配置できます。

<例>

- ・「縦方向に配置」の場合

A0100348	十和田メガネサロン増築工事	十和田メガネサロン増築工事	600018
A0100351	赤平産業本社新築工事	赤平産業本社新築工事	600002
A0100353	根室製パン店倉庫新築工事	根室製パン店倉庫新築工事	600014
A0100356	小樽フーズ倉庫新築工事	小樽フーズ倉庫新築工事	600006

- ・「横方向に配置」の場合

A0100348	A0100351	A0100353	A0100356
十和田メガネサロン増築工事	赤平産業本社新築工事	根室製パン店倉庫新築工事	小樽フーズ倉庫新築工事
十和田メガネサロン増築工事	赤平産業本社新築工事	根室製パン店倉庫新築工事	小樽フーズ倉庫新築工事
600018	600002	600014	600006

## 9. 配賦グループ（※DAIC2クラウド専用）

当機能により、配賦グループコード、配賦グループ名をセルに配置します。

### （1）処理の流れ

「マスター情報の取得」－「マスター情報の配置」をクリックして「配賦グループ」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の配賦グループを配置するのかが選択します。なお、当画面はFXクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

次に「配置する配賦グループの選択」画面が表示されます。当画面で Excel に配置する配賦グループを選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。これにより、選択した配賦グループコードと配賦グループ名がセルに配置できます。

### （2）方向の指定

「配置する配賦グループの選択」画面の「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を選択すると、配賦グループコードや配賦グループ名を縦方向に配置することができ、「横方向に配置」を選択すると、配賦グループコードや配賦グループ名を横方向に配置できます。

<例>

#### ・「縦方向に配置」の場合

A	宇都宮営業所	
B	日立営業所	
Z		

#### ・「横方向に配置」の場合

A	B	Z
宇都宮営業所	日立営業所	

## 10. 工種（※DAIC2クラウド専用）

当機能により、工種大分類コード、工種大分類名、工種小分類コード、工種小分類名をセルに配置します。

### （1）処理の流れ

「マスター情報の取得」－「マスター情報の配置」をクリックして「工種」メニューを選択すると、「会社の選択」画面が表示されます。当画面で、どの会社の工種を配置するのかが選択します。なお、当画面はFXクラウドシリーズを複数社利用している場合のみ表示されます。

次に「配置する工種の選択」画面が表示されます。当画面でExcelに配置する工種を選択し、「配置開始」ボタンをクリックします。これにより、選択した工種のコードと名称がセルに配置できます。

### （2）方向の指定

「配置する工種の選択」画面の「コード及び名称の配置方向」欄で「縦方向に配置」を選択すると、工種大分類コード、工種大分類名、工種小分類コード、工種小分類名を縦方向に配置することができ、「横方向に配置」を選択すると、工種大分類コード、工種大分類名、工種小分類コード、工種小分類名を横方向に配置できます。

<例>

#### ・「縦方向に配置」の場合

01	建設工事	01	仮設工事
01	建設工事	02	土工事
01	建設工事	03	地業・基礎工事
01	建設工事	04	型枠工事

#### ・「横方向に配置」の場合

01	01	01	01
建設工事	建設工事	建設工事	建設工事
01	02	03	04
仮設工事	土工事	地業・基礎工事	型枠工事

## V. マスター関数の挿入

### 1. 機能概要

(1) 「マスター関数の挿入」は、「マスター情報の配置」機能を拡張した機能です。任意のセルにこのマスター関数を挿入することで、ファイルを開くごとに条件に合致したマスター情報を自動で取得することができます。

(2) マスター関数は以下の通りです。なお、マスター関数は、現在、DAIC2クラウドの関与先で利用する場合のみご利用いただけます。

行	関数名	説明
1	工事マスター	指定した年月と勘定科目で発生や残高がある工事を取得できます。引数の入力方法により、「指定期間内に社内竣工予定日を迎える」工事も取得できます。
2	配賦グループマスター	指定した年月に間接工事費の計上がある配賦グループを取得できます。引数の入力方法により、「指定年月時点で間接工事費が未配賦」の配賦グループも取得できます。

## 2. 工事マスター (※DAIC2クラウド専用)



「引数の指定」で指定された条件に合致する、工事番号、工事名を含む、38項目の工事詳細情報を取得するための関数を、選択された「表の範囲」に挿入します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	会社コード	不可	事業年度の基準となる会社を会社コードで指定します。
第2引数	抽出条件	不可	取得したい工事の条件を以下のいずれかから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>完成工事高又は完成工事原価に動きのある工事を取得する場合は「取引内容の期間発生額がある」</li> <li>完成工事未収入金、未成工事支出金又は未成工事受入金に動きのある工事を取得する場合は「取引内容の月末残高がある」</li> <li>指定期間内に竣工予定の工事を取得する場合は「指定期間内に社内竣工予定日を迎える」</li> </ul>
第3引数	取引内容	不可	どのような取引に紐付いた工事を取得するかを取引内容で指定します。 なお、指定可能な取引内容は「完成工事未収入金(売上、入金)」「未成工事支出金(計上)」「未成工事受入金(受入、振替)」「完成工事高(売上)」「完成工事原価(振替)」となります。
第4引数	抽出開始年月	不可	配置する工事の抽出対象期間の開始年月を日付形式で指定します。指定した年月以降の工事が抽出対象となります。
第5引数	抽出終了年月	不可	配置する工事の抽出対象期間の終了年月を日付形式で指定します。指定した年月以前の工事が抽出対象となります。
第6引数	配置方向	不可	取得した工事番号及び工事正式名を縦方向に配置する場合は「縦」を、横方向に配置する場合は「横」を選択します。
第7引数	表の範囲	不可	関数を挿入する範囲を指定します。例えば、A列の1行目からB列の10行目までを指定する場合は「A1:B10」とします。  配置方向が「縦」の場合、指定する行数はデータの件数を表します。列数はデータ1件当たりの取得項目数を表します。データ1件当たり最大で10個の項目を取得可能です。列数を10と指定した場合、左から順に工事番号、工事正式名、未成・完成区分、契約日、契約着工日、契約竣工予定日、社内竣工予定日、竣工引渡日、請負金額(税込み)、請負金額(税抜き)が出力されます。 なお、配置方向が「横」の場合は行と列が逆になります。

### 3. 配賦グループマスター (※DAIC2クラウド専用)

関数の引数

関数名  
TKCCL配賦グループマスター

引数の指定 (\*は必須項目)

会社コード (\*)  \*\*\*

抽出条件 (\*)  ▼

抽出開始年月 (\*)  \*\*\*

抽出終了年月 (\*)  \*\*\*

配置方向 (\*)  ▼ \*\*\*

範囲の指定 (\*は必須項目)

表の範囲 (\*)  (1行×1列)

会社コードを指定します。

「引数の指定」で指定された条件に合致する、配賦グループコード、配賦グループ名を取得するための関数を、選択された「表の範囲」に挿入します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	会社コード	不可	事業年度の基準となる会社を会社コードで指定します。
<b>第2引数</b>	抽出条件	不可	取得したい配賦グループの条件を以下のいずれかから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定期間内に間接工事費を計上した配賦グループを取得する場合は「期間内に間接工事費を計上している」</li> <li>・ 指定年月時点で間接工事費が未配賦である配賦グループを取得する場合は「指定年月時点で間接工事費が未配賦」</li> </ul>
<b>第3引数</b>	抽出開始年月	不可	配置する配賦グループの抽出対象期間の開始年月を日付形式で指定します。指定した年月以降の配賦グループが抽出対象となります。
<b>第4引数</b>	抽出終了年月	不可	配置する配賦グループの抽出対象期間の終了年月を日付形式で指定します。指定した年月以前の配賦グループが抽出対象となります。
<b>第5引数</b>	配置方向	不可	取得した配賦グループコード及び配賦グループ名を縦方向に配置する場合は「縦」を、横方向に配置する場合は「横」を選択します。
<b>第6引数</b>	表の範囲	不可	関数を挿入する範囲を指定します。例えば、A列の1行目からB列の10行目までを指定する場合は「A1:B10」とします。  配置方向が「縦」の場合、指定する行数はデータの件数を表します。列数はデータ1件当たりの取得項目数を表します。データ1件当たり最大で2個の項目を取得可能です。列数を2と指定した場合、左から順に配賦グループコード、配賦グループ名が出力されます。なお、配置方向が「横」の場合は行と列が逆になります。

# VI. マネジメントレポート設計ツール特有の関数

## 1. 機能概要

(1) マネジメントレポート設計ツール特有の関数を挿入することにより、Excel ファイルを起動の都度、最新の実績や予算などのデータをFXクラウドシリーズのデータベースから直接取得できます。このため、当機能を利用することにより、FXクラウドシリーズ本体を起動することなく、最新の実績や予算をExcel上で確認できます。

(2) マネジメントレポート設計ツール特有の関数は以下の通りです。

### ①共通関数ライブラリ

行	関数名	説明
1	処理年月	「最新の仕訳入力月」、「最新の月次更新完了月」などの年月が取得できます。当関数を利用して取得した年月を、他の関数の引数にすることにより、最新の実績データが取得できるようになります。
2	期首からの経過月数	引数にした年月の、期首月からの経過月数が取得できます。期首月を引数にした場合は「1」が取得できます。当関数を利用することにより、月平均などの集計が可能です。
3	科目別残高	各勘定科目の残高や期間発生額などが取得できます。引数の入力方法により、部門別科目別残高、科目別口座別残高、科目別取引先別残高などを取得することもできます。
4	科目別予算	各勘定科目の予算額が取得できます。引数の入力方法により、部門別科目別予算額、科目別口座別予算額を取得することもできます。
5	利益管理表実績	変動損益計算書の実績額が取得できます。引数の入力方法により、部門ごとの変動損益計算書の実績額も取得できます。
6	利益管理表予算	利益管理表項目ごとの予算額が取得できます。引数の入力方法により、部門ごとの予算額も取得できます。
7	従事員数等	従事員数や床面積などの情報が取得できます。当関数を利用することで、収益や費用の各金額に対する参考情報を表示することができます。

### ②建設用関数ライブラリ（※DAIC2クラウドの関与先で利用する場合のみ表示されます）

行	関数名	説明
1	資金実績/計画値 －工事別入金予定金額	工事ごとの工事入金科目（未成工事受入金・完成工事未収入金）の入金予定額を取得できます。
2	資金実績/計画値 －工事別入金予定内訳金額	工事入金予定の入金方法（現金入金・預金入金・手形受入・電債受入）ごとの入金予定額が取得できます。
3	直接工事費間接工事費	未成工事支出金の内訳科目の残高や期間発生額などが取得できます。引数の入力方法により、四大費目別の金額も取得できます。
4	工事別残高	工事ごとの残高や期間発生額などが取得できます。
5	実行予算	工事ごとの実行予算額が取得できます。引数の入力方法により、工種大分類/小分類別、発注先別、未成工事支出金の内訳科目別に取得することもできます。

### ③合計部門用関数ライブラリ（※MX2クラウドの関与先で利用する場合のみ表示されます）

行	関数名	説明
1	合計部門別科目別残高	各勘定科目の残高や期間発生額などを取得します。引数の入力方法により、科目別部門別残高、科目別口座別残高、科目別取引先別残高などを取得することもできます。
2	合計部門別科目別予算	各勘定科目の予算額を取得します。引数の入力方法により、科目別部門別予算額、科目別口座別予算額を取得することもできます。

3	合計部門別利益管理表実績	合計部門として割り当てられたコードを指定し、利益管理表項目ごとの実績額を取得します。
4	合計部門別利益管理表予算	合計部門として割り当てられたコードを指定し、利益管理表項目ごとの予算額を取得します。

④ 医業用関数ライブラリ (※MX 2クラウドの関与先で利用する場合のみ表示されます)

行	関数名	説明
1	外来入金別点数等	外来入院別保険の種類別に件数、実日数及び診療点数を取得します。
2	合計部門別外来入院別点数等	合計部門として割り当てられたコードを指定し、外来入院別保険の種類別に件数、実日数、診療点数及び診療日数を取得します。
3	外来患者数等	外来診療日数、初診患者数、初来院患者数、中断患者数を取得します。
4	入院患者数等	入院診療日数、新入院患者数、退院患者数、実働病床数、月初在院患者数を取得します。
5	合計部門別外来患者数等	合計部門として割り当てられたコードを指定し、外来診療日数、初診患者数、初来院患者数、中断患者数を取得します。
6	合計部門別入院患者数等	合計部門として割り当てられたコードを指定し、入院診療日数、新入院患者数、退院患者数、実働病床数、月初在院患者数を取得します。

各関数の詳細については、「[3. 関数の詳細 \(関数ライブラリの一覧と引数\)](#)」において別途解説します。

- (3) 各関数で引数を指定します。「引数の指定」の各入力欄に該当する引数を入力します。引数には、固定の値だけでなく、他のセルの値を参照するように設定できます。

関数の引数

関数名  
TKCCL処理年月

引数の指定(※は必須項目)

会社コード(※)  ""

基準年月(※)  ""

年月区分(※)  ""

会社コードを指定します。

OK キャンセル



## Excel の参照設定について

The screenshot shows an Excel spreadsheet with the following data:

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		115	株式会社TKC食品						
2									
3			2019年4月						
4	000	共通部門							
5	001	製造部門							
6	002	受託生産							

The dialog box '関数の引数' (Argument Selection) for 'TKCCL利益管理表実績' contains the following arguments:

- 関数名: TKCCL利益管理表実績
- 引数の指定(\*は必須項目):
- 集計開始年月 (\*): C\$3
- 集計終了年月 (\*): C\$3
- 会社コード (\*): \$B\$1
- 部門コード: \$A4
- 利益管理表項目コード (\*): 111

Excel の参照には「相対参照」、「絶対参照」、「複合参照」の3つの形式があり、「F4」キーで参照形式を切り替えることができます。これらの形式を使い分けることにより、効率的にマネジメントレポートを作成できます。

### ・相対参照 (入力例: A1 B2)

数式が入力されているセルと、参照先セルの位置関係を相対的に指定するため、数式をコピーすると、行番号も列番号も相対的に変更されます。

### ・絶対参照 (入力例: \$A\$1 \$B\$1)

参照先のセル番地を固定するため、数式をコピーしてもセルの番地は変更されません。

例えば、上記画面では、引数「会社コード」にはB1のセルを絶対参照するように指定しています。この数式を他のセルにコピーすると、コピー先に関係なく、引数「会社コード」にはB1のセルが参照されるようになります。

### ・複合参照 (入力例: \$A1 B\$1)

参照先のセル番地の行だけ、又は列だけが固定されます。数式をコピーすると、行番号、列番号のいずれかだけが変更されます。例えば、上記画面では、引数「集計開始年月」にはC3のセルを複合参照(行を固定)するように指定しています。この数式を、同一列の他の行にコピーすると、絶対参照と同様、C3のセルが参照されるようになります。また、他の列にコピーすると、当該列の「3」の行のセル(D3、E3など)が参照されるようになります。

## 2. 表(配列数式)として数式を記述する方法



当機能は、現在、DAIC 2クラウド専用関数の「工事別入金予定金額」「工事別入金予定内訳金額」「工事別残高」「実行予算」にのみ搭載されています。

### (1) 概要

下記のような表を作成する際、未成工事支出金の内訳科目と工事の組合せ別に数式を記述すると、例えば、35科目、50工事の場合、数式を複写等により1750個記述する必要があります。

	A	B	C	D	E
1	999	株式会社 T K C建設			
2	開始年月	2022年4月	CNS00001	CNS00002	...
3	終了年月	2023年3月	宇都宮商店店舗改修工事	鹿沼工業第2工場増築工事	...
4	1901	未) 材料費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A4,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A4,1,C3)	...
5	1902	未) 労務外注費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A5,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A5,1,C3)	...
6	1903	未) 直用労務費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A6,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A6,1,C3)	...
7	1951	未) 消費賃金	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A7,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A7,1,C3)	...
8	1904	未) 外注費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A8,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A8,1,C3)	...
9	1905	未) 仮設材賃借料	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A9,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A9,1,C3)	...
10	1906	未) 仕入(すくい出し)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A10,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A10,1,C3)	...
11	1907	未) 仮設材減価償却費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A11,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A11,1,C3)	...
12	1908	未) 仮設材修繕費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A12,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A12,1,C3)	...
13	1961	未) 仮設損料	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A13,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A13,1,C3)	...
14	1909	未) 動力用水光熱費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A14,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A14,1,C3)	...
15	1910	未) (運搬費)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A15,1,C2)	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A15,1,C3)	...
16	...	...	...	...	...

これに対して、表(配列数式)として数式を記述した場合、数式を1つ記述すれば済みます。

	A	B	C	D	E
1	999	株式会社 T K C建設			
2	開始年月	2022年4月	CNS00001	CNS00002	...
3	終了年月	2023年3月	宇都宮商店店舗改修工事	鹿沼工業第2工場増築工事	...
4	1901	未) 材料費	=@工事別残高("期間発生額",B2,B3,288,A4:A38,1,C2:AZ2)		
5	1902	未) 労務外注費			
6	1903	未) 直用労務費			
7	1951	未) 消費賃金			
8	1904	未) 外注費			
9	1905	未) 仮設材賃借料			
10	1906	未) 仕入(すくい出し)			
11	1907	未) 仮設材減価償却費			
12	1908	未) 仮設材修繕費			
13	1961	未) 仮設損料			
14	1909	未) 動力用水光熱費			
15	1910	未) (運搬費)			
16	...	...			

科目      工事

また、「工事マスター」を使って工事を動的に取得した場合、条件に応じて工事数が増えるため、工事番号が表示されていない行に対して数式が記述されていると、「#VALUE!」エラーが発生します。これを表(配列数式)として数式を記述した場合は、工事数が増えた場合でも自動的に数式の範囲も変化するため、エラーが発生しません。

### (2) 使用するメリット

次のようなメリットがあります。

- ①記述する数式の数を大幅に減らすことができます。この結果、記述した数式の確認が簡単になります。
- ②計算が速くなります。
- ③配列数式で入力時に範囲指定したセルの一部を修正することができなくなるので、誤って表の一部の数式を修正してしまうことが無くなります。
- ④ファイルサイズが小さくなります。

### (3) 表(配列数式)として数式を記述する手順

表(配列数式)としての記述に対応した関数で、セル範囲(配列)での指定が可能な引数にセル範囲(配列)を指定します。

なお、セル範囲(配列)で指定可能な引数の入力欄は、ピンク色に表示されます。

画面下部のチェックボックスにチェックを付けると、表(配列形式)とするセル範囲を自動判定します。セル範囲の大きさは、行×列で表示されます。

[OK] ボタンをクリックすると配列数式として関数が挿入されます。

配列数式は、入力時に指定したセル範囲中の一部のセルを修正したり削除したりすることはできません(「配列の一部を変更できません」というエラーメッセージが表示されます)。

画面下のチェックボックスのチェックを外してから [OK] ボタンをクリックし、通常の数式に変換してから削除してください。

### (4) 表(配列形式)としたセル範囲の判定

①縦・横両方向に引数が配列で指定されている場合

	A	B	C	D	E
1	999	株式会社 TKC建設			
2	開始年月	2022年4月	CNS00001	CNS00002	
3	終了年月	2023年3月	工事CNS00001	工事CNS00002	
4	1901	未) 材料費			
5	1902	未) 労務外注費			
6	1903	未) 雇用労務費			
7	1951	未) 消費賃金			
8	1904	未) 外注費			
9	1905	未) 仮設材賃借料			
10	1906	未) 仕入(すくい出し)			
11	1907	未) 仮設材減価償却費			
12	1908	未) 仮設材修繕費			
13	1961	未) 仮設損料			
14	1909	未) 動力用水光熱費			
15	1910	未) (運搬費)			
16					

指定した引数

判定されるセルの範囲

1) 左上端の判定

行: 縦方向の引数で指定された、最も上のセルの行

列: 横方向の引数で指定された、最も左のセルの列

2) 大きさの判定

行方向: 縦方向の引数で指定されたセル数(縦方向に複数の引数を指定している場合は、そのうち最大のもの)

列方向: 横方向の引数で指定されたセル数(横方向に複数の引数を指定している場合は、そのうち最大のもの)

②縦方向のみに引数が配列で指定されている場合

	A	B	C	D	E
1	999	株式会社 T K C 建設			
2	開始年月	2022年4月	CNS00001	CNS00002	
3	終了年月	2023年3月	工事CNS00001	工事CNS00002	
4	1901	未) 材料費			
5	1902	未) 労務外注費			
6	1903	未) 直用労務費			
7	1951	未) 消費賃金			
8	1904	未) 外注費			
9	1905	未) 仮設材賃借料			
10	1906	未) 仕入 (すくい出し)			
11	1907	未) 仮設材減価償却費			
12	1908	未) 仮設材修繕費			
13	1961	未) 仮設損料			
14	1909	未) 動力用水光熱費			
15	1910	未) (運搬費)			
16					

指定した引数

判定されるセルの範囲

1) 左上端の判定

行：縦方向の引数で指定された、最も上のセルの行  
列：関数挿入画面を開いた際に選択していたセルの列

2) 大きさの判定

行方向：縦方向の引数で指定されたセル数（縦方向に複数の引数を指定している場合は、そのうち最大のもの）

列方向：1列

③横方向のみに引数が配列で指定されている場合

	A	B	C	D	E
1	999	株式会社 T K C 建設			
2	開始年月	2022年4月	CNS00001	CNS00002	
3	終了年月	2023年3月	工事CNS00001	工事CNS00002	
4	1901	未) 材料費			
5	1902	未) 労務外注費			
6	1903	未) 直用労務費			
7	1951	未) 消費賃金			
8	1904	未) 外注費			
9	1905	未) 仮設材賃借料			
10	1906	未) 仕入 (すくい出し)			
11	1907	未) 仮設材減価償却費			
12	1908	未) 仮設材修繕費			
13	1961	未) 仮設損料			
14	1909	未) 動力用水光熱費			
15	1910	未) (運搬費)			
16					

指定した引数

判定されるセルの範囲

1) 左上端の判定

行：関数挿入画面を開いた際に選択していたセルの行  
列：横方向の引数で指定された、最も左のセルの列

2) 大きさの判定

行方向：1列

列方向：横方向の引数で指定されたセル数（横方向に複数の引数を指定している場合は、そのうち最大のもの）

### 3. 関数の詳細（関数ライブラリの一覧と引数）

マネジメントレポート設計ツール特有の関数及び引数は以下の通りです。

#### (1) 関数「処理年月」

関数の引数

関数名  
TKOCL処理年月

引数の指定>(\*は必須項目)

会社コード(\*)  ""

基準年月(\*)  ""

年月区分(\*)  ""

会社コードを指定します。

OK キャンセル

年月を取得します。当関数から取得した年月を、残高などを取得する関数の引数に指定することにより、最新の業績が取得できるようになります。当関数を利用して挿入したセルの「書式」の「表示形式」は「日付」となります。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	会社コード	不可	どの会社の処理年月を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第2引数</b>	基準年月	不可	処理年月の基準となる年月を以下のように指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・最新の伝票入力月を基準とする場合は「最終処理年月」の文字を選択します。</li> <li>・最新の月次更新完了月を基準とする場合は「最終月次更新完了月」の文字を選択します。</li> <li>・基準とする年月を直接指定する場合は年月を入力します。入力方法は「日付」形式（「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式です。「202009」や「2009」などの値を指定すると、誤った結果がセルに表示されています）です。</li> </ul>
<b>第3引数</b>	年月区分	不可	第2引数「基準年月」の年月を基準とし、取得する年月を以下のいずれかから選択します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・そのまま取得する場合は「当月」</li> <li>・前月を取得する場合は「前月」</li> <li>・翌月を取得する場合は「翌月」</li> <li>・12か月前の年月を取得する場合は「前年同月」</li> <li>・当該年月が属する事業年度の期首月を取得する場合は「期首月」</li> <li>・当該年月が属する事業年度の決算月を取得する場合は「決算月」</li> <li>・当該年月が属する四半期会計期間の最初の月を取得する場合は「四半期期首月」</li> <li>・当該年月が属する四半期会計期間の最後の月を取得する場合は「四半期期末月」</li> </ul>

## (2) 関数「期首からの経過月数」

関数の引数
×

関数名  
TKCCL期首からの経過月数

引数の指定(\*は必須項目)

会社コード(\*)  ""

年月(\*)  ""

会社コードを指定します。

OK
キャンセル

指定した年月が期首から何か月目に該当するかを取得します。期首月の場合は「1」の値が取得できます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	会社コード	不可	事業年度の基準となる会社を会社コードで指定します。
<b>第2引数</b>	年月	不可	期首からの経過月数を求める年月を入力します。入力方法は「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)です。

### (3) 関数「科目別残高」

関数の引数

関数名  
TKCCL科目別残高

引数の指定(\*は必須項目)

取得する金額 (*)		"""
集計開始年月 (*)		"""
集計終了年月 (*)		"""
会社コード (*)		"""
部門コード		"""
勘定科目コード (*)		"""
補助コード		"""
取引先コード		"""

取得する金額を選択します。

- ・「期間末残高」：期間末の残高
- ・「期間発生額」：期間発生額
- ・「借方発生額」：借方の期間発生額
- ・「貸方発生額」：貸方の期間発生額

OK    キャンセル

各勘定科目の残高や期間発生額などを取得します。引数の入力方法により、部門別科目別残高、科目別口座別残高、科目別取引先別残高などを取得できます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	取得する金額	不可	取得する金額を以下のいずれかの文字を入力します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期間末の残高を取得する場合は「期間末残高」</li> <li>・ 期間発生額を取得する場合は「期間発生額」</li> <li>・ 借方の期間発生額を取得する場合は「借方発生額」</li> <li>・ 貸方の期間発生額を取得する場合は「貸方発生額」</li> </ul>
<b>第2引数</b>	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式（「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式）で指定します。「前月」（直近の月次更新完了月）の属する事業年度の前々期期首月以降の指定が可能です。指定した年月以降の期間が集計期間となります。なお、第1引数「取得する金額」が「期間末残高」の場合は当第2引数の入力は不要です。
<b>第3引数</b>	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
<b>第4引数</b>	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第5引数</b>	部門コード	可	どの部門の金額を取得するかを部門コードで指定します。当欄は部門ごとの金額を取得する場合のみ入力します。省略した場合は全社の金額が取得できます。
<b>第6引数</b>	勘定科目コード	不可	どの勘定科目の金額を取得するかを勘定科目コードで指定します。
<b>第7引数</b>	補助コード	可	どの口座の金額を取得するかを補助コードで指定します。当欄は口座ごとの金額を取得する場合のみ入力します。
<b>第8引数</b>	取引先コード	可	どの取引先の金額を取得するかを取引先コードで指定します。当欄は取引先ごとの金額を取得する場合のみ入力します。 ただし、部門別取引先別の金額は取得できません。部門コードと当欄を入力した場合、「#VALUE」と表示されます。

#### (4) 関数「科目別予算」

関数の引数
×

関数名  
TKCCL科目別予算

引数の指定(\*は必須項目)

集計開始年月 (*)		""
集計終了年月 (*)		""
会社コード (*)		""
予算区分 (*)	継続MA S予算	"継続MA S予算"
部門コード		""
勘定科目コード (*)		""
補助コード		""

集計開始年月を指定します。

OK
キャンセル

各勘定科目の予算額を取得します。引数の入力方法により、部門別科目別予算額、科目別口座別予算額を取得できます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式（令和2年9月）や「2020年9月」などの形式）で指定します。「前月」（直近の月次更新完了月）の属する事業年度の前々期期首月以降の指定が可能です。指定した年月以降の期間が集計期間となります。
<b>第2引数</b>	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
<b>第3引数</b>	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第4引数</b>	予算区分	不可	「継続MA S予算」と指定します。
<b>第5引数</b>	部門コード	可	どの部門の金額を取得するかを部門コードで指定します。当欄は部門ごとの金額を取得する場合のみ入力します。
<b>第6引数</b>	勘定科目コード	不可	どの勘定科目の金額を取得するかを勘定科目コードで指定します。
<b>第7引数</b>	補助コード	可	どの口座の金額を取得するかを補助コードで指定します。当欄は口座ごとの金額を取得する場合のみ入力します。

### (5) 関数「利益管理表実績」

関数の引数

関数名  
TKCCL利益管理表実績

引数の指定(\*は必須項目)

集計開始年月 (*)		""
集計終了年月 (*)		""
会社コード (*)		""
部門コード		""
利益管理表項目コード (*)		""

集計開始年月を指定します。

利益管理表項目ごとの実績額を取得します。引数の指定方法により部門別の利益管理表実績を取得できます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式（「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式）で指定します。「前月」（直近の月次更新完了月）の属する事業年度の前々期期首月以降の指定が可能です。指定した年月以降の期間が集計期間となります。
<b>第2引数</b>	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
<b>第3引数</b>	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第4引数</b>	部門コード	可	どの部門の金額を取得するかを部門コードで指定します。当欄は部門ごとの金額を取得する場合のみ入力します。
<b>第5引数</b>	利益管理表項目コード	不可	どの利益管理表項目の金額を取得するかを利益管理表項目コードで指定します。

## (6) 関数「利益管理表予算」

関数の引数

関数名  
TKCCL利益管理表予算

引数の指定(\*は必須項目)

集計開始年月 (*)		""
集計終了年月 (*)		""
会社コード (*)		""
予算区分 (*)	継続MA S予算	"継続MA S予算"
部門コード		""
利益管理表項目コード (*)		""

集計開始年月を指定します。

OK
キャンセル

利益管理表項目ごとの予算額を取得します。引数の指定方法により部門別の利益管理表の予算を取得できます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式（「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式）で指定します。「前月」（直近の月次更新完了月）の属する事業年度の前々期期首月以降の指定が可能です。指定した年月以降の期間が集計期間となります。
<b>第2引数</b>	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
<b>第3引数</b>	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第4引数</b>	予算区分	不可	「継続MA S予算」と指定します。
<b>第5引数</b>	部門コード	可	どの部門の金額を取得するかを部門コードで指定します。当欄は部門ごとの金額を取得する場合のみ入力します。
<b>第6引数</b>	利益管理表項目コード	不可	どの利益管理表項目の金額を取得するかを利益管理表項目コードで指定します。

(7) 関数「従事員数等」

従事員数や単位数量を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	年月	不可	単位数量を取得する年月を「日付」形式（「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式）で指定します。
<b>第2引数</b>	会社コード	不可	どの会社の単位数量を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第3引数</b>	単位数量名	不可	どの単位数量を取得するか指定します。
<b>第4引数</b>	部門コード	可	どの部門の単位数量を取得するかを部門コードで指定します。当欄は部門ごとの従事員数又は単位数量を取得する場合のみ入力します。

(8) 関数「工事別入金予定金額」(※DAIC2クラウド専用)

関数の引数

関数名  
TKCCL工事別入金予定金額

引数の指定(\*は必須項目)

集計開始年月日 (\*) ""

集計終了年月日 (\*) ""

会社コード (\*) ""

工事番号 (\*) ""

入金予定額等の区分 (\*) ""

表(配列形式)として挿入する  
表の範囲 (\*) (1行×1列)

集計開始年月日を指定します。

OK キャンセル

工事ごとの工事入金科目(未成工事受入金・完成工事未収入金)の入金予定額を取得できます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容	セル範囲 (配列) 指定
第1引数	集計開始年月日	不可	金額の集計期間の開始年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。	
第2引数	集計終了年月日	不可	金額の集計期間の終了年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。	
第3引数	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。	
第4引数	工事番号	不可	どの工事の金額を取得するかを工事番号で指定します。 (※セル範囲(配列)の指定が可能です。)	○
第5引数	入金予定額等の区分	不可	どの金額を取得するかを指定します。 ・「回収予定額」: 回収予定額 ・「相殺額」: 相殺額 ・「入金予定額」: 入金予定額(回収予定額から相殺額を減じた額)	

(9) 関数「工事別入金予定内訳金額」(※DAIC2クラウド専用)

関数の引数

関数名  
TKCCL工事別入金予定内訳金額

引数の指定 (\*は必須項目)

集計開始年月日 (\*) ""

集計終了年月日 (\*) ""

会社コード (\*) ""

工事番号 (\*) ""

入金方法の区分 ""

表(配列形式)として挿入する  
表の範囲 (\*) (1行×1列)

集計開始年月日を指定します。

OK キャンセル

工事ごと・入金方法ごとの入金予定額を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容	セル範囲 (配列) 指定
第1引数	集計開始年月日	不可	金額の集計期間の開始年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。	
第2引数	集計終了年月日	不可	金額の集計期間の終了年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。	
第3引数	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。	
第4引数	工事番号	不可	どの工事の金額を取得するかを工事番号で指定します。 (※セル範囲(配列)の指定が可能です。)	○
第5引数	入金方法の区分	可	どの入金方法の金額を取得するかを指定します。省略した場合は、すべての入金方法の入金予定額合計額を取得します。 ・「現金入金」：現金入金の金額 ・「預金入金」：預金入金の金額 ・「手形受入」：手形受入の金額 ・「電債受入」：電債受入の金額	

(10) 関数「直接工事費間接工事費」(※DAIC2クラウド専用)

関数の引数

関数名  
TKCCL直接工事費間接工事費

引数の指定(\*は必須項目)

取得する金額 (\*)

集計開始年月 (\*)

集計終了年月 (\*)

会社コード (\*)

直接工事費/間接工事費 (\*)

未成工事支出金科目コード (\*)

未成工事支出金補助コード

取引先コード

取得する金額を選択します。

- ・「期間末残高」：期間末の残高
- ・「期間発生額」：期間発生額
- ・「借方発生額」：借方の期間発生額
- ・「貸方発生額」：貸方の期間発生額

OK キャンセル

未成工事支出金の内訳科目の残高や期間発生額などを取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	取得する金額	不可	取得する金額を以下のいずれかから選択します。 ・「期間末残高」：期間末の残高 ・「期間発生額」：期間発生額 ・「借方発生額」：借方の期間発生額 ・「貸方発生額」：貸方の期間発生額
第2引数	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。
第3引数	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。
第4引数	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
第5引数	直接工事費/間接工事費	不可	取得する金額の種類を以下のいずれかから選択します。 ・「直接工事費」：直接工事費の金額 ・「間接工事費」：間接工事費の金額
第6引数	未成工事支出金科目コード	可	どの原価要素の金額を取得するかを未成工事支出金の勘定科目コード(1901~1981)で指定します。 なお、4大費目別の金額を取得する場合は、以下の合計科目コードを指定します。 ・未成工事支出金計：1900 ・材料費計：1990 ・労務費計：1991 ・外注費計：1992 ・経費計：1995
第7引数	未成工事支出金補助コード	可	補助コードを指定します。省略した場合は、勘定科目の金額を取得します。
第8引数	取引先コード	可	取引先コードを指定します。省略した場合は、勘定科目の金額を取得します。

(11) 関数「工事別残高」(※DAIC2クラウド専用)

工事ごとの残高や期間発生額などを取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容	セル範囲 (配列) 指定
<b>第1引数</b>	取得する金額	不可	取得する金額を以下のいずれかから選択します。 ・「期間末残高」：期間末の残高 ・「期間発生額」：期間発生額 ・「借方発生額」：借方の期間発生額 ・「貸方発生額」：貸方の期間発生額	
<b>第2引数</b>	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。	
<b>第3引数</b>	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月日を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月日以降の期間が集計期間となります。	
<b>第4引数</b>	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。	
<b>第5引数</b>	工事番号/配賦グループコード	不可	工事番号又は配賦グループコードを指定します。 (※セル範囲(配列)の指定が可能です。)	○
<b>第6引数</b>	勘定科目コード	不可	完成工事未収入金(1122)、未成工事支出金(19XX)、未成工事受入金(2116)、完成工事高(4XXX)、完成工事原価(5XXX)を指定します(※セル範囲(配列)の指定が可能です)。 なお、合計額を取得する場合は、以下の合計科目コードを指定します。 ・未成工事支出金計：1900 ・材料費計：1990 ・労務費計：1991 ・外注費計：1992 ・経費計：1995 ・完成工事高計：4000 ・完成工事原価計：5500	○
<b>第7引数</b>	補助科目コード	可	補助コードを指定します。省略した場合は、勘定科目の金額を取得します。(※セル範囲(配列)の指定が可能です。)	○
<b>第8引数</b>	取引先コード	可	取引先コードを指定します。省略した場合は、勘定科目の金額を取得します。(※セル範囲(配列)の指定が可能です。)	○

(12) 関数「実行予算」(※DAIC2クラウド専用)

工事ごとの実行予算額を取得します。引数の入力方法により、工種大分類／小分類別、発注先別、未成工事支出金の内訳科目別に取得することもできます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容	セル範囲 (配列) 指定
第1引数	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。	
第2引数	工事番号	不可	工事番号を指定します。	○
第3引数	予算種別	不可	予算種別を以下のいずれかから指定します。 ・「実行予算」：概算予算以外 ・「工種別概算予算」：概算予算	
第4引数	工種大分類コード	可	どの工種大分類の金額を取得するかを工種大分類コードで指定します。	
第5引数	工種小分類コード	可	どの工種小分類の金額を取得するかを工種小分類コードで指定します。	
第6引数	発注先コード	可	どの発注先の金額を取得するかを取引先コードで指定します。	
第7引数	未成工事支出金科目コード	可	どの原価要素の金額を取得するかを未成工事支出金の勘定科目コード(1901～1981)で指定します。 なお、4大費目別の実行予算を取得する場合は、以下の合計科目コードを指定します。 ・直接材料費：1990 ・直接労務費：1991 ・直接外注費：1992 ・直接経費：1995 ・間接工事費：1981 ・合計：1900	
第8引数	未成工事支出金補助科目コード	可	補助コードを指定します。省略した場合は、勘定科目の金額を取得します。	

### (13) 関数「合計部門別科目別残高」(※MX2クラウド専用)

各勘定科目の残高や期間発生額などを取得します。引数の入力方法により、科目別部門別残高、科目別口座別残高、科目別取引先別残高などを取得することもできます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	取得する金額	不可	取得する金額を以下のいずれかの文字を入力します。 ・ 期間末の残高を取得する場合は「期間末残高」 ・ 期間発生額を取得する場合は「期間発生額」 ・ 借方の期間発生額を取得する場合は「借方発生額」 ・ 貸方の期間発生額を取得する場合は「貸方発生額」
<b>第2引数</b>	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式（「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式）で指定します。指定した年月以降の期間が集計期間となります。なお、第1引数「取得する金額」が「期間末残高」の場合は当第2引数の入力は不要です。
<b>第3引数</b>	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
<b>第4引数</b>	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第5引数</b>	部門コード	不可	どの経理区分の金額を取得するかを部門コードで指定します。
<b>第6引数</b>	勘定科目コード	不可	どの勘定科目の金額を取得するかを勘定科目コードで指定します。
<b>第7引数</b>	補助コード	可	どの口座の金額を取得するかを補助コードで指定します。当欄は口座ごとの金額を取得する場合のみ入力します。
<b>第8引数</b>	取引先コード	可	どの取引先の金額を取得するかを取引先コードで指定します。当欄は取引先ごとの金額を取得する場合のみ入力します。 ただし、部門別取引先別の金額は取得できません。部門コードと当欄を入力した場合、「#VALUE」と表示されます。

(14) 関数「合計部門別科目別予算」(※MX2クラウド専用)

各勘定科目の予算額を取得します。引数の入力方法により、科目別部門別予算額、科目別口座別予算額を取得することもできます。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式(令和2年9月)や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月以降の期間が集計期間となります。
第2引数	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
第4引数	予算区分	不可	「継続MAS予算」と指定します。
第5引数	部門コード	不可	どの経理区分の金額を取得するかを部門コードで指定します。
第6引数	勘定科目コード	不可	どの勘定科目の金額を取得するかを勘定科目コードで指定します。
第7引数	補助コード	可	どの口座の金額を取得するかを補助コードで指定します。当欄は口座ごとの金額を取得する場合のみ入力します。

(15) 関数「合計部門別利益管理表実績」(※MX2クラウド専用)

合計部門として割り当てられたコードを指定し、利益管理表項目ごとの実績額を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
<b>第1引数</b>	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月以降の期間が集計期間となります。
<b>第2引数</b>	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
<b>第3引数</b>	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
<b>第4引数</b>	部門コード	不可	どの経理区分の金額を取得するかを部門コードで指定します。
<b>第5引数</b>	利益管理表項目コード	不可	どの利益管理表項目の金額を取得するかを利益管理表項目コードで指定します。

(16) 関数「合計部門別利益管理表予算」(※MX2クラウド専用)

関数の引数

関数名  
TKCCL合計部門別利益管理表予算

引数の指定(\*は必須項目)

集計開始年月(\*)  ""

集計終了年月(\*)  ""

会社コード(\*)  ""

予算区分(\*) 継続MAS予算 "継続MAS予算"

部門コード(\*)  ""

利益管理表項目コード(\*)  ""

集計開始年月を指定します。

OK キャンセル

合計部門として割り当てられたコードを指定し、利益管理表項目ごとの予算額を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	金額の集計期間の開始年月を「日付」形式(「令和2年9月」や「2020年9月」などの形式)で指定します。指定した年月以降の期間が集計期間となります。
第2引数	集計終了年月	不可	金額の集計期間の終了年月を「日付」形式で入力します。指定した年月以前の期間が集計期間となります。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の金額を取得するかを会社コードで指定します。
第4引数	予算区分	不可	「継続MAS予算」と指定します。
第5引数	部門コード	不可	どの経理区分の金額を取得するかを部門コードで指定します。
第6引数	利益管理表項目コード	不可	どの利益管理表項目の金額を取得するかを利益管理表項目コードで指定します。

(17) 関数「外来入院別点数等」(※MX2クラウド専用)

関数の引数

関数名  
TKCGL外来入院別点数等

引数の指定(\*は必須項目)

集計開始年月 (\*)

集計終了年月 (\*)

会社コード (\*)

部門コード

外来/入院 (\*)

医業データ (\*)

保険の種類

集計開始年月を指定します。

OK キャンセル

外来入院別保険の種類別に件数、実日数及び診療点数を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	集計期間の開始年月を「日付」形式で指定します。
第2引数	集計終了年月	不可	集計期間の終了年月を「日付」形式で指定します。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の医業データを取得するかをコードで指定します。
第4引数	部門コード	可	どの部門の医業データを取得するかをコードで指定します。当欄は部門ごとのデータを取得する場合のみ入力します。省略した場合は全社の医業データが取得できます。
第5引数	外来/入院	不可	外来と入院の区分を指定します。 ・外来：外来診療 ・入院：入院診療
第6引数	医業データ	不可	取得する医業データを、以下から指定します。 ・件数：件数 ・実日数：実日数 ・点数：診療報酬点数
第7引数	保険の種類	可	保険の種類を指定します。すべての保険の種類の医業データを取得する場合は空白とします。 ・社保：社会保険 ・国保：国民健康保険 ・後期高齢：後期高齢者医療制度 ・自由診療：自由診療

(18) 関数「合計部門別外来入院別点数等」(※MX2クラウド専用)

関数の引数

関数名  
TKCCL合計部門別外来入院別点数等

引数の指定(※は必須項目)

集計開始年月(※) [ ] ""

集計終了年月(※) [ ] ""

会社コード(※) [ ] ""

部門コード(※) [ ] ""

外来/入院(※) [ ] ""

医業データ(※) [ ] ""

保険の種類 [ ] ""

集計開始年月を指定します。

OK キャンセル

外来入院別保険の種類別に件数、実日数、診療点数及び診療日数を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	集計期間の開始年月を「日付」形式で指定します。
第2引数	集計終了年月	不可	集計期間の終了年月を「日付」形式で指定します。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の医業データを取得するかをコードで指定します。
第4引数	部門コード	不可	どの経理区分の医業データを取得するかをコードで指定します。
第5引数	外来/入院	不可	外来と入院の区分を指定します。 ・外来：外来診療 ・入院：入院診療
第6引数	医業データ	不可	取得する医業データを、以下から指定します。 ・件数：件数 ・実日数：実日数 ・点数：診療報酬点数
第7引数	保険の種類	可	保険の種類を指定します。すべての保険の種類の医業データを取得する場合は空白とします。 ・社保：社会保険 ・国保：国民健康保険 ・後期高齢：後期高齢者医療制度 ・自由診療：自由診療

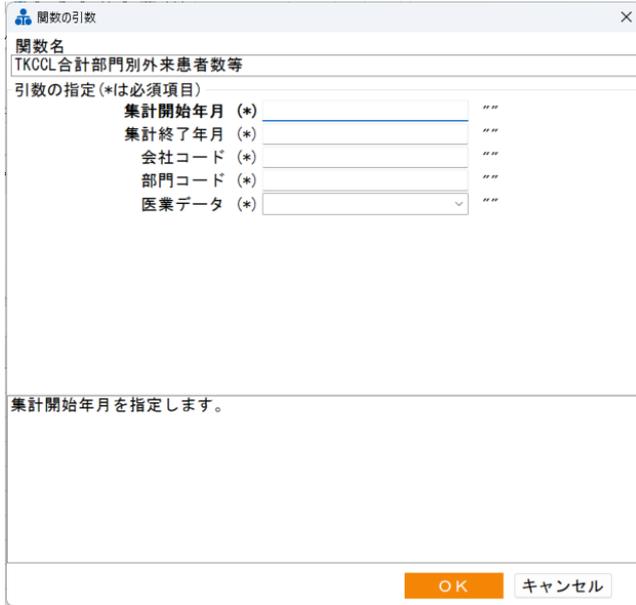
(19) 関数「外来患者数等」(※MX2クラウド専用)

外来診療日数、初診患者数、初来院患者数、中断患者数を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	集計期間の開始年月を「日付」形式で指定します。
第2引数	集計終了年月	不可	集計期間の終了年月を「日付」形式で指定します。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の医業データを取得するかをコードで指定します。
第4引数	部門コード	可	どの部門の医業データを取得するかをコードで指定します。当欄は部門ごとのデータを取得する場合のみ入力します。省略した場合は全社の医業データを取得します。
第5引数	医業データ	不可	取得する医業データを以下から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来診療日数：外来診療日数</li> <li>・初診患者数：初診の患者数</li> <li>・初来院患者数：初めて来院した患者数</li> <li>・中断患者数：外来診療を中断した患者数</li> </ul>

(20) 関数「合計部門別外来患者数等」(※MX2クラウド専用)



合計部門として割り当てられたコードを指定し、外来診療日数、初診患者数、初来院患者数、中断患者数を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	集計期間の開始年月を「日付」形式で指定します。
第2引数	集計終了年月	不可	集計期間の終了年月を「日付」形式で指定します。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の医業データを取得するかをコードで指定します。
第4引数	部門コード	不可	どの経理区分の医業データを取得するかをコードで指定します。
第5引数	医業データ	不可	取得する医業データを以下から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・外来診療日数：外来診療日数</li> <li>・初診患者数：初診の患者数</li> <li>・初来院患者数：初めて来院した患者数</li> <li>・中断患者数：外来診療を中断した患者数</li> </ul>

(21) 関数「入院患者数等」(※MX2クラウド専用)

入院診療日数、新入院患者数、退院患者数、実働病床数、月初在院患者数を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	集計期間の開始年月を「日付」形式で指定します。
第2引数	集計終了年月	不可	集計期間の終了年月を「日付」形式で指定します。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の医業データを取得するかをコードで指定します。
第4引数	部門コード	可	どの部門の医業データを取得するかをコードで指定します。当欄は部門ごとのデータを取得する場合のみ入力します。省略した場合は全社の医業データを取得します。
第5引数	医業データ	不可	取得する医業データを以下から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院診療日数：入院診療日数</li> <li>・新入院患者数：新しく入院した患者数</li> <li>・退院患者数：退院した患者数</li> <li>・実働病床数：実働している病床数</li> <li>・月初在院患者数：月初めに在院している患者数</li> </ul>

(22) 関数「合計部門別入院患者数等」(※MX2クラウド専用)

合計部門として割り当てられたコードを指定し、入院診療日数、新入院患者数、退院患者数、実働病床数、月初在院患者数を取得します。

当関数の引数は以下の通りです。

	引数の名称	省略	指定する内容
第1引数	集計開始年月	不可	集計期間の開始年月を「日付」形式で指定します。
第2引数	集計終了年月	不可	集計期間の終了年月を「日付」形式で指定します。
第3引数	会社コード	不可	どの会社の医業データを取得するかをコードで指定します。
第4引数	部門コード	不可	どの経理区分の医業データを取得するかをコードで指定します。
第5引数	医業データ	不可	取得する医業データを以下から指定します。 <ul style="list-style-type: none"> <li>・入院診療日数：入院診療日数</li> <li>・新入院患者数：新しく入院した患者数</li> <li>・退院患者数：退院した患者数</li> <li>・実働病床数：実働している病床数</li> <li>・月初在院患者数：月初めに在院している患者数</li> </ul>

## 4. 作成例（部門業績比較表）

### （1）会社コード、集計開始年月・集計終了年月の配置

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3								
4								
5								

会社コード、集計開始年月・集計終了年月を「1」行目に配置（又は直接入力）します。

### （2）利益管理表項目の配置

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3								
4								
5								

「A」列の「5」行目のセルを選択します。

利益管理表項目

1. 会社の選択  
▼  
株式会社TKC食品

2. 配置する利益管理表項目の選択

配置する利益管理表項目の選択

- 111 売上高1
- 112 売上高2
- 113 売上高3
- 114 売上高4
- 115 売上値引戻り高(△)
- 110 純売上高
- 211 期首棚卸高
- 221 商品仕入高1
- 222 商品仕入高2
- 223 商品仕入高3
- 224 商品仕入高4
- 225 仕入値引戻し高(△)
- 226 材料仕入高1

コード及び名称の配置方向  
 縦方向に配置  横方向に配置

戻る 配置開始 中止

「マスター情報の配置」内の「利益管理表項目」をクリックします。すると、「利益管理表項目の選択」画面が表示されます。（F Xクラウドシリーズを複数社利用している場合は会社を選択後、当該画面が表示されます。）

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3								
4								
5	111	売上高1						
6	112	売上高2						
7	113	売上高3						
8	114	売上高4						
9	115	売上値引戻り高(△)						
10	110	純売上高						

「利益管理表項目の選択」画面で、「全選択」ボタンをクリックし、「配置開始」ボタンをクリックします。すると、利益管理表項目のコード及び名称が、A列及びB列の5行目以降の行に配置されます。

### (3) 部門の配置

	A	B	C	D	E	F	G	H
3	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3								
4								
5	111	売上高 1						

「C」列の「3」行目のセルを選択します。

部門

1. 会社の選択

▼

2. 配置する部門の選択

ABC株式会社

全選択 全解除

配置する部門の選択

- 000 共通部門
- 001 営業部門
- 002 製造部門
- 003 受託部門

コード及び名称の配置方向

縦方向に配置  横方向に配置

戻る 配置開始 中止

「部門の選択」画面で、「全選択」ボタンをクリックします。コード及び名称の配置方向を「横方向に配置」を指定し、「配置開始」ボタンをクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3			000	001	002	003		
4			共通部門	営業部門	製造部門	受託部門		
5	111	売上高 1						

すると、C列以降の3行目に部門コード、4行目に部門名が表示されます。

#### (4) 利益管理表実績の配置

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3			000	001	002	003		
4			共通部門	営業部門	製造部門	受託部門		
5	111	売上高1						

「C」列の「5」行目を選択します。

関数の引数

関数名  
TKOCL利益管理表実績

引数の指定>(\*は必須項目)

集計開始年月 (\*)

集計終了年月 (\*)

会社コード (\*)

部門コード

利益管理表項目コード (\*)

集計開始年月を指定します。

OK キャンセル

「利益管理表実績」ボタンをクリックし、利益管理表実績関数の「引数の指定」画面を表示します。

「集計開始年月」欄に「\$C\$1」、「集計終了年月」欄に「\$D\$1」の文字を入力します。「会社コード」欄に「\$A\$1」を入力します。「利益管理表項目コード」欄に「\$A5」の文字を入力し、「OK」ボタンをクリックします。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3			000	001	002	003		
4			共通部門	営業部門	製造部門	受託部門		
5	111	売上高1	25600					

すると、C列の5行目には、利益管理表項目「売上高1」の実績額が表示されます。

	A	B	C	D	E	F	G	H
1	115	株式会社TKC食品	2019年4月	2019年5月				
2								
3			000	001	002	003		
4			共通部門	営業部門	製造部門	受託部門		
5	111	売上高1	25600	2000		3000		
6	112	売上高2						
7	113	売上高3						
8	114	売上高4						
9	115	売上値引戻り高(△)						
10	110	純売上高	25600	2000		3000		

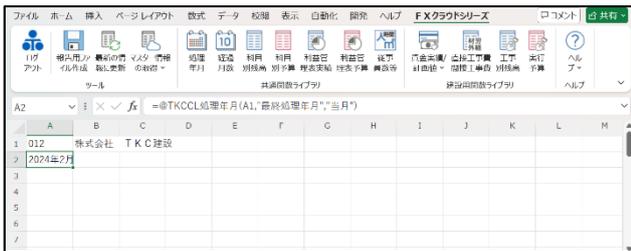
C列の5行目のセルの内容を、C列～E列の5行目以降のすべてのセルにコピーします。

すると、各部門の利益管理表項目の実績額が表示されます。

その後、列の幅の調整等を行うことにより完成です。

## 5. 作成例（工事粗利益一覧表）（※DAIC2クラウド専用）

### （1）会社コード、集計年月の配置



会社コードをA列の1行目に、集計年月をB列の1行目に配置（又は直接入力）します。

### （2）工事基本情報の配置



A列の4行目のセルを選択します。



「マスター情報の取得」ボタンから「マスター関数の挿入」－「工事マスター」をクリックし、工事マスター関数の引数の指定画面を表示します。各引数に以下のように指定します。

項目	値
会社コード	\$A\$1
抽出条件	取引内容の月末残高がある
取引内容	未成工事支出金（計上）
抽出開始年月	—
抽出終了年月	\$A\$2
配置方向	縦
表の範囲	\$A\$4:\$J\$28



すると、A列の4行目からJ列の28行目まで、指定した月に未成工事支出金の月末残高がある工事の情報が表示されます。

### (3) 実行予算額の配置

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	012	株式会社	T K C建設										
2	2024年2月												
3													
4	20230601	床木クリ-完成工事	2023年08,2023年08,2024年01,2024年01,2024年01,2024年01,21242358	19311235									
5	20230901	鉄骨第一-1未成工事	2023年09,2023年09,2024年02,2024年02,	26623970	24203609								
6	20240101	単道22F未成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	8675000	7886364								
7	20240102	相模原中野未成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	12679000	11526364								

K列の4行目のセルを選択します。

関数の引数

関数名  
TKCCL実行予算

引数の指定>(\*は必須項目)

会社コード(\*) \$A\$1 "012"

工事番号(\*) \$A\$4:\$A\$28 [20071002;20071101;

予算種別(\*) 実行予算 "実行予算"

工種大分類コード ""

工種小分類コード ""

発注先コード ""

未成工事支出金科目コード 1900 1900

未成工事支出金補助コード ""

表(配列形式)として挿入する  
表の範囲(\*) K4:K28 (25行×1列)

会社コードを指定します。

OK キャンセル

「実行予算」ボタンをクリックし、実行予算関数の引数の指定画面を表示します。各引数に以下のように指定します。(実行予算を各工事の総額で取得するため、工種大分類コード、工種小分類コード、発注先コード、未成工事支出金補助科目コードは指定しません)。なお、「表の範囲」は、「表(配列形式)として挿入する」のチェックボックスにチェックを付けると、自動で値がセットされます。

項目	値
会社コード	\$A\$1
工事番号	\$A\$4:\$A\$28
予算種別	実行予算
工種大分類コード	※指定しません
工種小分類コード	※指定しません
発注先コード	※指定しません
未成工事支出金科目コード	1900
未成工事支出金補助科目コード	※指定しません
表の範囲	K4:K28 (※自動でセット)

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M
1	012	株式会社	T K C建設										
2	2024年2月												
3													
4	20230601	床木クリ-完成工事	2023年08,2023年08,2024年01,2024年01,2024年01,2024年01,21242358	19311235							9000000		
5	20230901	鉄骨第一-1未成工事	2023年09,2023年09,2024年02,2024年02,	26623970	24203609	26000000							
6	20240101	単道22F未成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	8675000	7886364	7700000							
7	20240102	相模原中野未成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	12679000	11526364	11000000							

すると、K列の4行目から28行目まで、指定した工事の実行予算額が表示されます。

#### (4) 工事別残高の配置

項目	年月	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額
012	株式会社 T K C 建設									
2024年2月										
20230801	茨木クリ完成工事	2023年08, 2023年08, 2024年01, 2024年01, 2024年01, 2024年01	21242358	19311235	9000000					
20230901	鈴鹿第一未成工事	2023年09, 2023年09, 2024年02, 2024年02	26623970	24203609	26000000					
20240101	串道22未成工事	2024年01, 2024年01, 2024年05, 2024年05	8675000	7886364	7700000					
20240102	相模原中未成工事	2024年01, 2024年01, 2024年05, 2024年05	12679000	11526364	11000000					

最初に、「材料費計」の金額を取得します。L 列の 4 行目のセルを選択します。

**関数の引数**

関数名  
TKCCL 工事別残高

引数の指定 (\*は必須項目)

取得する金額 (\*): 期間末残高 "期間末残高"

集計開始年月 (\*): "2024年2月"

集計終了年月 (\*): \$A\$2 "2024年2月"

会社コード (\*): \$A\$1 "012"

工事番号/配賦グループコード (\*): \$A\$4:\$A\$28 [20230801; 20230901; ...]

勘定科目コード (\*): 1990

補助コード: ""

取引先コード: ""

表 (配列形式) として挿入する  
表の範囲 (\*): L4:L28 (25行 × 1列)

取得する金額を選択します。  
 ・「期間末残高」: 期間末の残高  
 ・「期間発生額」: 期間発生額  
 ・「借方発生額」: 借方の期間発生額  
 ・「貸方発生額」: 貸方の期間発生額

OK キャンセル

「工事別残高」ボタンをクリックし、工事別残高関数の引数の指定画面を表示します。各引数に以下のように指定します (材料費を各工事の総額で取得するため、補助コード、取引先コードは指定しません)。

項目	値
取得する金額	期間末残高
集計開始年月	—
集計終了年月	\$A\$2
会社コード	\$A\$1
工事番号/配賦グループコード	\$A\$4:\$A\$28
勘定科目コード	1990
補助コード	※指定しません
取引先コード	※指定しません
表の範囲	L4:L28 (※自動でセット)

項目	年月	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額
012	株式会社 T K C 建設									
2024年2月										
20230801	茨木クリ完成工事	2023年08, 2023年08, 2024年01, 2024年01, 2024年01, 2024年01	21242358	19311235	9000000					3821447
20230901	鈴鹿第一未成工事	2023年09, 2023年09, 2024年02, 2024年02	26623970	24203609	26000000					3108912
20240101	串道22未成工事	2024年01, 2024年01, 2024年05, 2024年05	8675000	7886364	7700000					1500000
20240102	相模原中未成工事	2024年01, 2024年01, 2024年05, 2024年05	12679000	11526364	11000000					2000000

すると、L 列の 4 行目から 28 行目まで、指定した工事の「材料費計」の金額が表示されます。

項目	年月	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額	金額
012	株式会社 T K C 建設									
2024年2月										
20230801	茨木クリ完成工事	2023年08, 2023年08, 2024年01, 2024年01, 2024年01, 2024年01	21242358	19311235	9000000					3821447
20230901	鈴鹿第一未成工事	2023年09, 2023年09, 2024年02, 2024年02	26623970	24203609	26000000					3108912
20240101	串道22未成工事	2024年01, 2024年01, 2024年05, 2024年05	8675000	7886364	7700000					1500000
20240102	相模原中未成工事	2024年01, 2024年01, 2024年05, 2024年05	12679000	11526364	11000000					2000000

続いて、「労務費計」の金額を取得します。M 列の 4 行目のセルを選択します。

関数の引数

関数名  
TKCCL工事別残高

引数の指定 (\*は必須項目)

取得する金額 (\*) 期間末残高 "期間末残高"  
 集計開始年月 (\*) "2023年08月"  
 集計終了年月 (\*) \$A\$2 "2024年2月"  
 会社コード (\*) \$A\$1 "012"  
 工事番号/配賦グループコード (\*) \$A\$4:\$A\$28 [20230801;20230901;  
 勘定科目コード (\*) 1991  
 補助コード ""  
 取引先コード ""

表 (配列形式) として挿入する  
 表の範囲 (\*) M4:M28 (25行×1列)

取引先コードを指定します。科目の金額を取得する場合は空白とします。  
 (※セル範囲 (配列) の指定が可能です。)

OK キャンセル

「工事別残高」ボタンをクリックし、工事別残高関数の引数の指定画面を表示します。各引数に以下のように指定します (労務費を各工事の総額で取得するため、補助コード、取引先コードは指定しません)。

項目	値
取得する金額	期間末残高
集計開始年月	—
集計終了年月	\$A\$2
会社コード	\$A\$1
工事番号/配賦グループコード	\$A\$4:\$A\$28
勘定科目コード	1991
補助コード	※指定しません
取引先コード	※指定しません

Excel スプレッドシート画面 (M4列)。

	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N
1	株式会社	T	K	C	建設								
2													
3													
4	床ホクリ完成工事	2023年08,2023年09,2024年01,2024年01,2024年01,21242358	19311235	9000000	3821447	1000000							
5	設備給水1完成工事	2023年09,2023年09,2024年02,2024年02,	26623970	24203609	26000000	3108512	0						
6	普通22完成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	8675000	7886364	7700000	1500000	500000						
7	根拠床下完成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	12679000	11526364	11000000	2000000	1500000						

すると、M列の4行目から28行目まで、指定した工事の「労務費計」の金額が表示されます。

Excel スプレッドシート画面 (N4列)。

	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O
1	T	K	C	建設									
2													
3													
4	完成工事	2023年08,2023年08,2024年01,2024年01,2024年01,21242358	19311235	9000000	3821447	1000000							
5	完成工事	2023年09,2023年09,2024年02,2024年02,	26623970	24203609	26000000	3108512	0						
6	完成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	8675000	7886364	7700000	1500000	500000						
7	完成工事	2024年01,2024年01,2024年05,2024年05,	12679000	11526364	11000000	2000000	1500000						

続いて、「外注費計」の金額を取得します。N列の4行目のセルを選択します。

関数の引数

関数名  
TKCCL工事別残高

引数の指定 (\*は必須項目)

取得する金額 (\*) 期間末残高 "期間末残高"  
 集計開始年月 (\*) "2023年08月"  
 集計終了年月 (\*) \$A\$2 "2024年2月"  
 会社コード (\*) \$A\$1 "012"  
 工事番号/配賦グループコード (\*) \$A\$4:\$A\$28 [20230801;20230901;  
 勘定科目コード (\*) 1992  
 補助コード ""  
 取引先コード ""

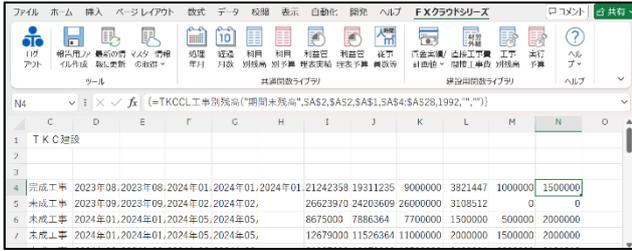
表 (配列形式) として挿入する  
 表の範囲 (\*) N4:N28 (25行×1列)

取引先コードを指定します。科目の金額を取得する場合は空白とします。  
 (※セル範囲 (配列) の指定が可能です。)

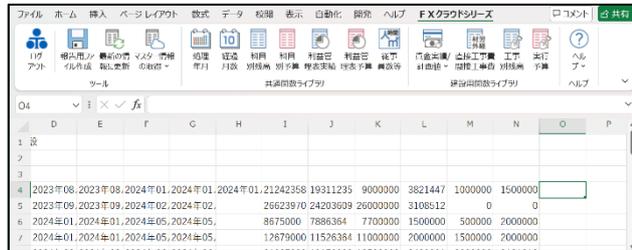
OK キャンセル

「工事別残高」ボタンをクリックし、工事別残高関数の引数の指定画面を表示します。各引数に以下のように指定します (外注費を各工事の総額で取得するため、補助コード、取引先コードは指定しません)。

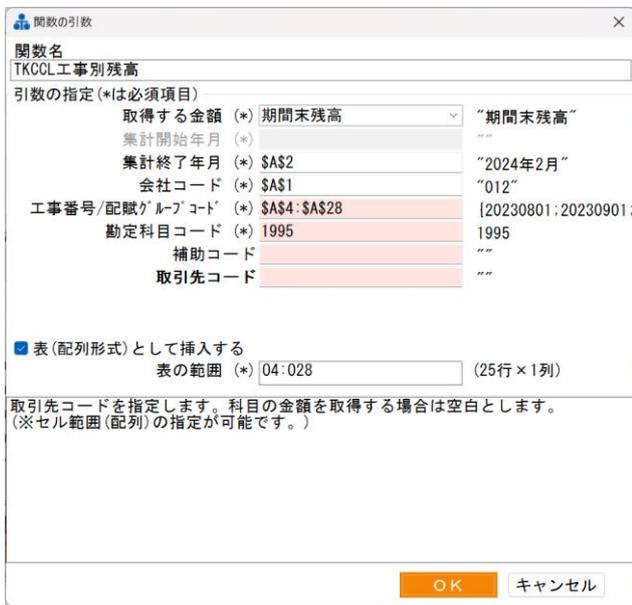
項目	値
取得する金額	期間末残高
集計開始年月	—
集計終了年月	\$A\$2
会社コード	\$A\$1
工事番号/配賦グループコード	\$A\$4:\$A\$28
勘定科目コード	1992
補助コード	※指定しません
取引先コード	※指定しません



すると、N列の4行目から28行目まで、指定した工事の「外注費計」の金額が表示されます。

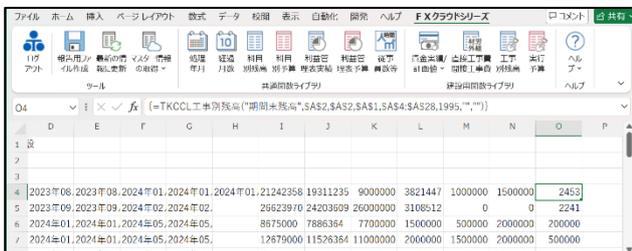


最後に、「経費計」の金額を取得します。O列の4行目のセルを選択します。



「工事別残高」ボタンをクリックし、工事別残高関数の引数の指定画面を表示します。各引数に以下のように指定します（経費を各工事の総額で取得するため、補助コード、取引先コードは指定しません）。

項目	値
取得する金額	期間末残高
集計開始年月	—
集計終了年月	\$A\$2
会社コード	\$A\$1
工事番号/配賦グループコード	\$A\$4:\$A\$28
勘定科目コード	1995
補助コード	※指定しません
取引先コード	※指定しません



すると、O列の4行目から28行目まで、指定した工事の「経費計」の金額が表示されます。

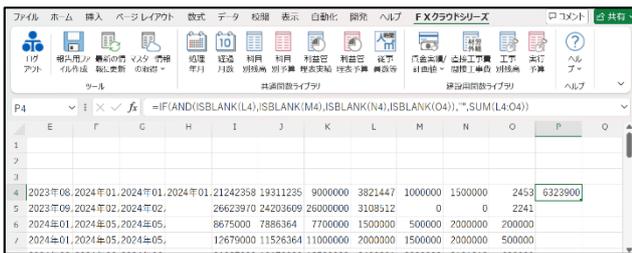
### (5) エクセル関数の挿入



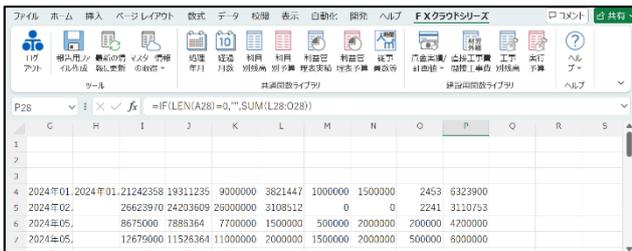
最初に、P 列の 3 行目を選択します。「材料費計」「労務費計」「外注費計」「経費計」を合計して「工事原価計」を表示します。

なお、工事番号が表示されていない行に「0 (ゼロ)」を表示させないようにするため、以下のように関数を入力します。

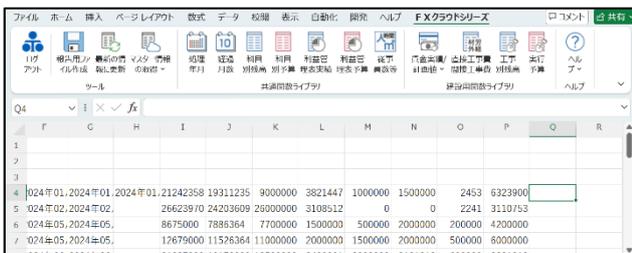
```
=IF(LEN(A4)=0,"",SUM(L4:O4))
```



すると、P 列の 4 行目に、金額が表示されます。



P 列の 4 行目のセルの内容を、P 列の 5 行目～28 行目のセルにコピーします。すると、工事番号が表示されているセルに、金額が表示されます。

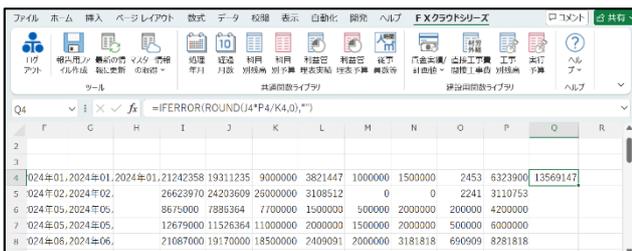


続いて、Q 列の 4 行目を選択します。以下の計算式で「工事出来高」を表示します。

**請負金額(税抜き) × 工事原価計 ÷ 実行予算額**

なお、計算式のいずれかの項目に金額が表示されていない工事で計算エラーを発生させないようにするため、以下のように関数を入力します。

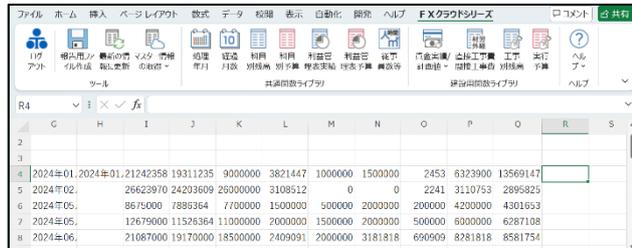
```
=IFERROR(ROUND(J4*P4/K4,0),"")
```



すると、Q 列の 4 行目に、金額が表示されます。



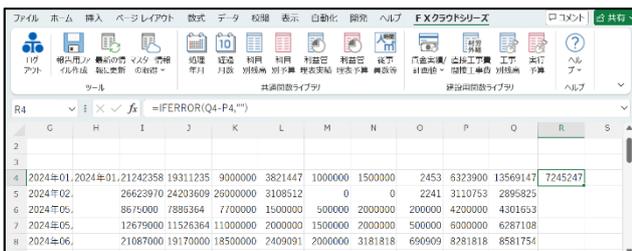
Q列の4行目のセルの内容を、Q列の5行目～28行目のセルにコピーします。すると、「工事出来高」のセルに、金額が表示されます。



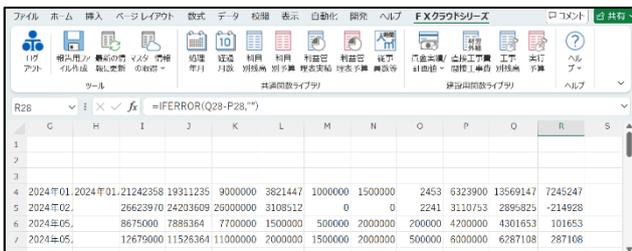
続いて、R列の4行目を選択します。以下の計算式で「工事粗利益」を表示します。  
**工事出来高－工事原価計**

なお、計算式のいずれかの項目に金額が表示されていない工事で計算エラーを発生させないようにするため、以下のように関数を入力します。

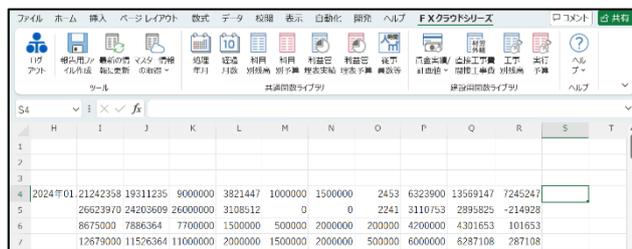
```
=IFERROR(Q4-P4, "")
```



すると、R列の4行目に、金額が表示されます。



R列の4行目のセルの内容を、R列の5行目～28行目のセルにコピーします。すると、「工事粗利益」のセルに、金額が表示されます。



続いて、S列の4行目を選択します。以下の計算式で「工事粗利益率」を表示します。  
**工事粗利益÷工事出来高×100**

なお、計算式のいずれかの項目に金額が表示されていない工事で計算エラーを発生させないようにするため、以下のように関数を入力します。

```
=IFERROR(R4/Q4*100, "")
```

	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
1													
2													
3													
4	2024年01	21242358	19311235	9000000	3821447	1000000	1500000	2453	6323900	13569147	7245247	53.39501	
5		26623970	24203609	26000000	3108512	0	0	2241	3110753	2895825	-214928	-7.422	
6		8675000	7886364	7700000	1500000	500000	2000000	200000	4200000	4301653	101653	2.363115	
7		12679000	11526364	11000000	2000000	1500000	2000000	500000	6000000	6287108	287108	4.566615	

すると、S列の4行目に、金額が表示されます。

	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
1													
2													
3													
4	2024年01	21242358	19311235	9000000	3821447	1000000	1500000	2453	6323900	13569147	7245247	53.39501	
5		26623970	24203609	26000000	3108512	0	0	2241	3110753	2895825	-214928	-7.422	
6		8675000	7886364	7700000	1500000	500000	2000000	200000	4200000	4301653	101653	2.363115	
7		12679000	11526364	11000000	2000000	1500000	2000000	500000	6000000	6287108	287108	4.566615	

S列の4行目のセルの内容を、S列の5行目～28行目のセルにコピーします。すると、「工事粗利益率」のセルに、金額が表示されます。

	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
1													
2													
3													
4		21242358	19311235	9000000	3821447	1000000	1500000	2453	6323900	13569147	7245247	53.39501	
5		26623970	24203609	26000000	3108512	0	0	2241	3110753	2895825	-214928	-7.422	
6		8675000	7886364	7700000	1500000	500000	2000000	200000	4200000	4301653	101653	2.363115	
7		12679000	11526364	11000000	2000000	1500000	2000000	500000	6000000	6287108	287108	4.566615	

続いて、T列の4行目を選択します。以下の計算式で「予算消化額」を表示します。  
**実行予算額－工事原価計**

なお、計算式のいずれかの項目に金額が表示されていない工事で計算エラーを発生させないようにするため、以下のように関数を入力します。

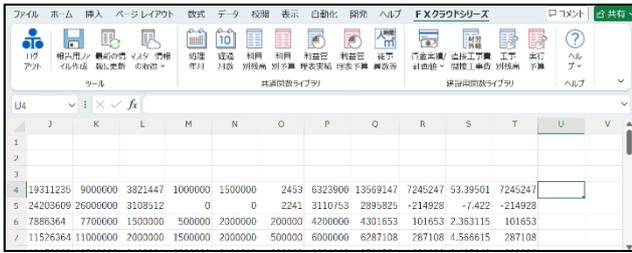
**=IFERROR(Q4-P4, "")**

	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
1													
2													
3													
4		21242358	19311235	9000000	3821447	1000000	1500000	2453	6323900	13569147	7245247	53.39501	7245247
5		26623970	24203609	26000000	3108512	0	0	2241	3110753	2895825	-214928	-7.422	
6		8675000	7886364	7700000	1500000	500000	2000000	200000	4200000	4301653	101653	2.363115	
7		12679000	11526364	11000000	2000000	1500000	2000000	500000	6000000	6287108	287108	4.566615	

すると、T列の4行目に、金額が表示されます。

	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T	U
1													
2													
3													
4		21242358	19311235	9000000	3821447	1000000	1500000	2453	6323900	13569147	7245247	53.39501	7245247
5		26623970	24203609	26000000	3108512	0	0	2241	3110753	2895825	-214928	-7.422	-214928
6		8675000	7886364	7700000	1500000	500000	2000000	200000	4200000	4301653	101653	2.363115	101653
7		12679000	11526364	11000000	2000000	1500000	2000000	500000	6000000	6287108	287108	4.566615	287108

T列の4行目のセルの内容を、T列の5行目～28行目のセルにコピーします。すると、「工事粗利益」のセルに、金額が表示されます。



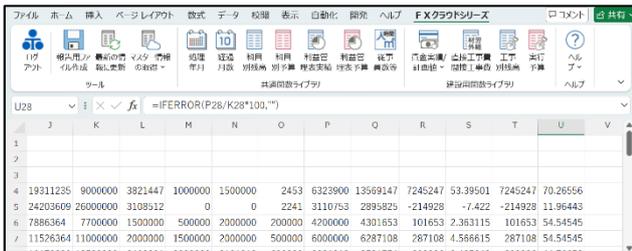
最後に、U列の4行目を選択します。以下の計算式で「予算消化率」を表示します。  
**実行予算額－工事原価計**

なお、計算式のいずれかの項目に金額が表示されていない工事で計算エラーを発生させないようにするため、以下のように関数を入力します。

```
=IFERROR(P4/K4*100, "")
```

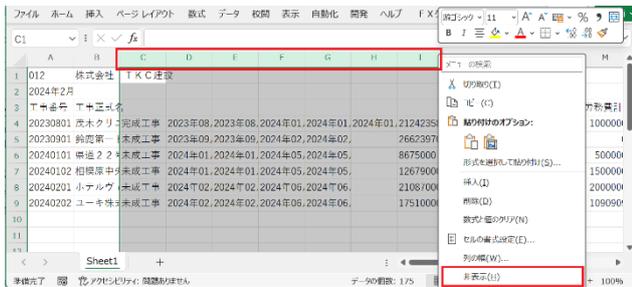


すると、U」列の4行目に、金額が表示されます。



U列の4行目のセルの内容を、U列の5行目～28行目のセルにコピーします。すると、「予算消化率」のセルに、金額が表示されます。

**(6) 列の調整等**



今回、C列(未成・完成区分)～I列(請負金額)までは必要ないため、エクセルの機能で非表示とします。C列～I列を選択し、右クリックで表示されたコンテキストメニューから「非表示(H)」を選択します。すると、C列～I列が非表示となります。

各列の3行目に、以下の項目タイトルを直接入力します。

A列	B列	C列～I列	J列	K列
工事番号	工事正式名	※非表示	請負金額(税抜き)	実行予算額
L列	M列	N列	O列	P列
材料費計	労務費計	外注費計	経費計	工事原価計
Q列	R列	S列	T列	U列
工事出来高	工事粗利益	工事粗利益率	予算消化額	予算消化率

その後、列の幅の調整等を行うことにより完成です。

# VII. FX2から移行した場合の注意点（お願い）

## 1. FX2利用時に作成したファイルのメンテナンス

FX2のMR設計ツールで作成したExcelファイルをFXクラウドへ移行後も継続利用する場合、ファイルのメンテナンスが必要です。具体的には以下のとおりです。

### (1) 関数名の修正

#### ●対象

すべてのお客様

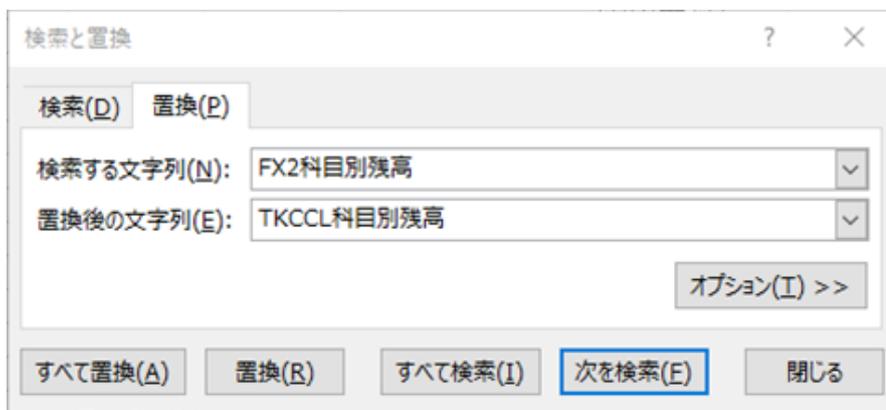
FX2とFXクラウドでは関数名が異なります。FXクラウドのデータを参照できるようにするため、関数名を下表のとおり変更してください。

FX2	FXクラウド
FX2処理年月	TKCCL処理年月
FX2期首からの経過月数	TKCCL期首からの経過月数
FX2科目別残高	TKCCL科目別残高
FX2科目別予算	TKCCL科目別予算
FX2利益管理表実績	TKCCL利益管理表実績
FX2利益管理表予算	TKCCL利益管理表予算
FX2従事員数等	TKCCL従事員数等



関数名の変更はExcelの「検索と置換」機能（Excel上で[Ctrl]+[H]キーを押下し起動）を利用して行ってください。検索の対象をブック全体とする場合は、オプションで変更することができます。

例) 「FX2科目別残高」を「TKCCL科目別残高」に変更する場合はそれぞれ次のとおり入力し、  
[すべて置換(A)] ボタンをクリックします。



### (2) 関数の引数の文字列修正

#### ●対象

関数「処理年月」(TKCCL 処理年月) を利用し、かつ第2引数「基準年月」を「最終月次決算完了月」としている場合

「処理年月」関数の第2引数「基準年月」の文字列が「最終月次決算完了月」から「最終月次更新完了月」へ変更されています。該当している場合は修正してください。

変更はExcelの「検索と置換」(上記1.の「ワンポイント」ご参照)で行います。それぞれ次のとおり入力してください。

- ・「検索する文字列」・・・最終月次決算完了月
- ・「置換後の文字列」・・・最終月次更新完了月

(3) 関数の引数の変更（「科目別残高」、「科目別予算」関数）

●対象

次のいずれかの関数を利用している場合

- ・「科目別残高」（TKCCL 科目別残高）
- ・「科目別予算」（TKCCL 科目別予算）

上記の関数ではそれぞれ第6引数に「勘定科目コード」をセットしています。FX2とFXクラウドでは合計科目コードが異なるため、合計科目の実績、予算を取得しようとした場合、FXクラウドのコードに修正する必要があります。該当する場合は引数を下表のとおり修正してください。

勘定科目名	FX2	FXクラウド
現預金小計	1	1101
当座資産計	2	1110
棚卸資産計	3	1120
その他流動資産計	4	1130
流動資産計	5	1100
有形固定資産計	6	1210
無形固定資産計	7	1220
投資その他の資産計	8	1230
固定資産計	9	1200
繰延資産計	10	1300
諸口勘定計	11	1400
資産の部合計	12	1000
流動負債計	13	2100
固定負債計	14	2200
負債の部合計	15	2000
繰越利益剰余金	※	3331
株主資本計	16	3100
評価・換算差額等計	17	3200
新株予約権計	18	3300
純資産の部合計	19	3000
負債・純資産の部合計	20	9000
純売上高	21	4000
当期製品製造原価	22	5100
当期売上原価	23	5200
売上総利益	24	5000
販売費及び一般管理費計	25	6100
営業利益（損失）	26	6000
営業外収益計	27	7100
営業外費用計	28	7200
経常利益（損失）	29	7000
特別利益計	30	8100
特別損失計	31	8200
税引前当期純利益（損失）	32	8000
当期純利益（損失）	※	9111
繰越利益剰余金期末残高	※	9611
材料費計	33	5410
労務費計	34	5420
経費計	35	5430

当期総製造費用	36	5400
当期製品製造原価	37	5500

※F X 2では出力されない合計行です。

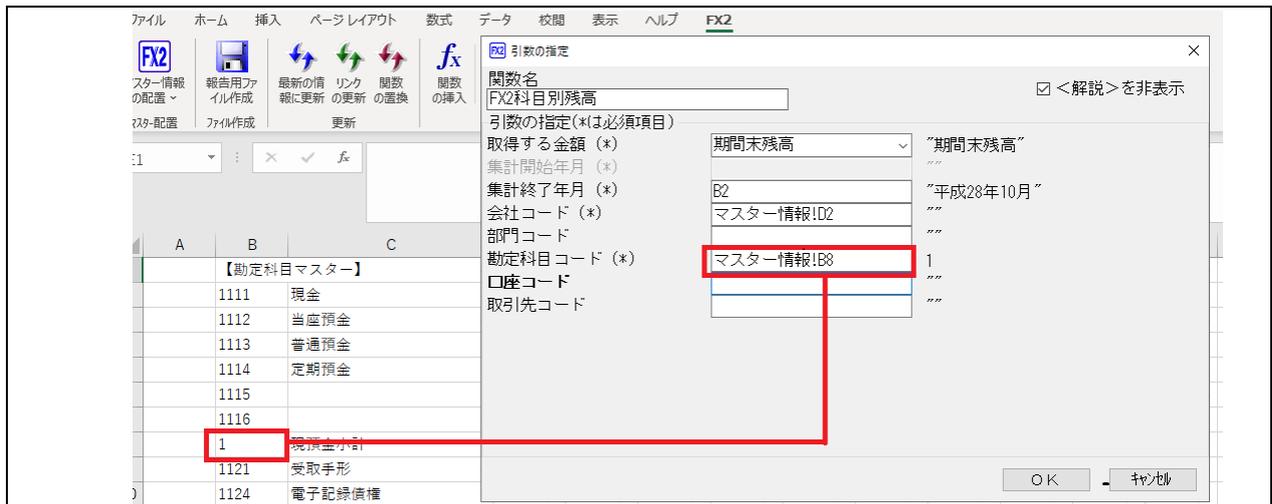


例えば「科目別残高」関数は下図のとおり 8 個の引数から構成され、残高を取得する「勘定科目コード」を第 6 引数で指定します。この引数の指定方法により、修正方法が以下のとおり異なります (いずれも「現預金小計」(勘定科目コード「1」)を指定していた場合の例です)。

### 1. 引数に直接勘定科目コードを指定していた場合

この場合は、「勘定科目コード」欄に「1101」(F Xクラウドの「現預金小計」)を入力してください。

### 2. 別途マスター情報を配置したセルを参照するようにしていた場合



上図のように別途マスター情報を配置し、「科目別残高」関数の引数はマスター情報の配置されたセルを参照するように指定していた場合は次のように修正してください。

- (1) F Xクラウドの「マスター情報の配置」機能で「勘定科目」を選択し、マスター情報を配置していたシートを上書きします。
- (2) 「科目別残高」関数の第6引数「勘定科目コード」が正しく「現預金小計」のマスター情報を参照できているか確認し、誤っている場合は修正します。

#### (4) 関数の引数の変更（「利益管理表実績」、「利益管理表予算」関数）

##### ●対象

次のいずれかの関数を利用している場合

- ・「利益管理表実績」（TKCCL 利益管理表実績）
- ・「利益管理表予算」（TKCCL 利益管理表予算）

「利益管理表実績」関数では第5引数に、「利益管理表予算」関数では第6引数に「利益管理表項目コード」をセットしています。F X 2とF Xクラウドではコードが異なるため、利益管理表の実績、予算を取得しようとした場合、F Xクラウドのコードに修正する必要があります。該当する場合は引数を下表のとおり修正してください。具体的な修正方法は「科目別残高」関数、「科目別予算」関数の場合と同様です。上記（3）の「ワンポイント」をご参照ください。

項目名（初期値）	F X 2	F Xクラウド
売上高 1	1	111
売上高 2	2	112
売上高 3	3	113
売上高 4	4	114
売上値引戻り高(△)	5	115
純売上高	6	110
期首棚卸高	7	211
商品仕入高 1	8	221
商品仕入高 2	9	222
商品仕入高 3	10	223
商品仕入高 4	69	224
仕入値引戻し高(△)	11	225
材料仕入高 1	12	226
材料仕入高 2	13	227
仕入高合計	14	220
外注加工費	15	231
外注加工費計（※1）	55	230
消耗品費	16	241

(空欄)	17	242
その他変動費	18	243
他の変動費計 (※2)	56	240
月末棚卸高(△)	20	251
共通原価配賦	21	261
変動費合計	22	260
限界利益	23	200
役員報酬	24	311
給与・賞与	25	312
福利厚生費等	27	313
人件費計	28	310
販売促進費	29	321
事務管理諸費	30	322
接待交際費	31	323
旅費交通費	32	324
他の製造経費	35	325
その他固定費	36	326
営業外損益	57	327
他の固定費	37	320
部門固定費計	38	300
部門達成利益	39	610
減価償却費	40	411
地代家賃・賃借料	41	412
保険料・修繕費	43	413
設備費計	44	410
固定費合計	45	400
部門貢献利益	46	620
共通固定費配賦	47	421
部門貢献利益 (配賦後)	48	630
棚卸高増減(△)	49	431
経常利益	50	500

(※1) 「変動損益計算書」の「総括表」の4行目に表示される値です。

(※2) 「変動損益計算書」の「総括表」の5行目に表示される値です。

## (5) 関数の引数の変更（「従業員数等」関数）

### ●対象

- ・「従業員数」（TKCCL 従業員数等）を利用している場合

#### ①名称の変更

「単位数量名」の「月末従業員」は「月末従業員数」に名称が変更されています。該当する場合は、修正してください。具体的な修正方法は「科目別残高」関数、「科目別予算」関数の場合と同様です。上記（3）の「ワンポイント」をご参照ください。

#### ②引数の項目の変更

##### 1)変更点

FXクラウドでは、第3引数「マスターの種類」（従業員数の場合は「1」、単位数量の場合は「2」）の指定がありません。そのため、「FX2 従業員数等」を「TKCCL 従業員数等」に置き換えると「#VALUE」となり、値を取得することができません。

例えば、「関数の引数」画面を表示すると、単位数量名に「1」、部門コード欄に「月末従業員数」と1項目ずつずれて表示されてしまいます。

<FX2 従業員数等>

<TKCCL 従業員数等>

引数の指定		関数の引数	
関数名	FX2従業員数等	関数名	TKCCL従業員数等
引数の指定(*は必須項目)		引数の指定(*は必須項目)	
年月(*)	C\$1 "平成31年 1月"	年月(*)	C\$1 "平成31年 1月"
会社コード(*)	217 217	会社コード(*)	217 217
マスターの種類(*)	1 1	単位数量名(*)	1 1
分類名	\$B2 "月末従業員"	部門コード	\$B2 "月末従業員数"
部門コード	\$E\$1 ""		

##### 2)対処方法

「TKCCL 従業員数等」の第3引数を削除してください。削除する方法として、セルを指定して直接削除するか、「検索と置換」により削除する方法があります。例えば、「検索と置換」で以下の文字列を指定することで削除することができます。

- ・検索する文字列・・・「,1,」（マスターの種類で「1」を指定している場合）
- ・置換後の文字列・・・「,」

なお、[すべて検索(I)]ボタンをクリックすると、検索文字列を含むセルが一覧で表示されます。当機能により、置換が不要なセルを確認することができます。当機能もご利用し、削除してください。

ブック	シート	名前	セル	値	数式
MR.xlsx	FX2 (2)		\$C\$2	#VALUE!	=@TKCCL従業員数等(C\$1,217,1,"", \$B\$1)
MR.xlsx	FX2 (2)		\$D\$2	#VALUE!	=@TKCCL従業員数等(D\$1,217,1,"", \$B\$1)
MR.xlsx	FX2 (2)		\$E\$2	#VALUE!	=@TKCCL従業員数等(E\$1,217,1,"", \$B\$1)

## (6) 関数の引数の定義変更（「従業員数等」関数）

### ●対象

- 「従業員数」（TKCL 従業員数等）を利用し、かつ第3引数「単位数量名」を「空欄」としている場合

①FX2では「分類名」（FXクラウドでは「単位数量名」としています。）を空欄とすることで従業員数の合計を取得することができます。

②FXクラウドで、「単位数量名」を空欄とした場合、「#VALUE」となり、「従業員数の合計」を取得することができません。そのため、「従業員数等の合計」を取得している場合は、合計を取得するための表を別途作成し、作成した表の合計を参照先として指定してください。作成例は以下のとおりです。

1) 従業員数と処理年月を配置します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		2019年1月	2019年2月	2019年3月					
2	月末従業員数								
3	販売員数								

2) 「従業員数」（TKCL 従業員数等）を利用し、各月の従業員数を取得します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		2019年1月	2019年2月	2019年3月					
2	月末従業員数	23.5	24.5	25.5					
3	販売員数	4.5	5.5	5.5					

3) Excel のSUM関数を利用して各月の合計を取得します。

	A	B	C	D	E	F	G	H	I
1		2019年1月	2019年2月	2019年3月					
2	月末従業員数	23.5	24.5	25.5					
3	販売員数	4.5	5.5	5.5					
4	合計	28	30	31					

4) 「従業員数等」(FX2 従業員数等) で従業員数の合計を取得していたセルの参照先を、上記③で作成した表の合計のセルとします。

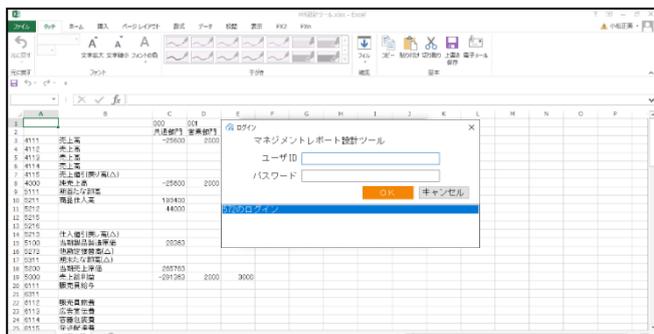
	A	B	C	D	E	F	G	H
1	全社		2019年1月	2019年2月	2019年3月			
2		従業員数合計	28	30	31			
3	111	製品売上高	19536000	20000000	19312000			
4	112	商品売上高						
5	113	売上高3						
6	114	売上高4						
7	115	売上値引戻り高(△)						
8	110	純売上高						

	A	B	C	D	E	F
1		2019年1月	2019年2月	2019年3月		
2	月末従業員数	23.5	24.5	25.5		
3	販売員数	4.5	5.5	5.5		
4	合計	28	30	31		

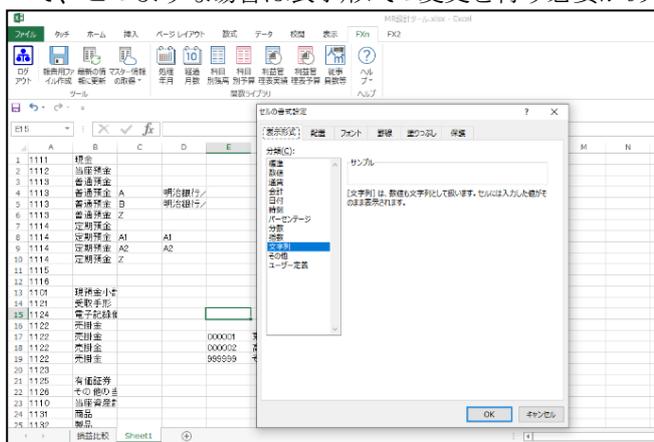
## VIII. 利用上の注意点

1. マネジメントレポート設計ツールをインストールした場合、Excel の起動にあたり、数秒かかる場合があります。
2. マネジメントレポート設計ツール特有の関数を埋め込んだファイルを起動する際、ユーザ ID 及びパスワードの入力画面が表示されます。このユーザ ID 及びパスワードの入力画面の背後には Excel のデータが表示されます。



このデータは前回当 Excel ファイルを保存した際のデータであり、F Xクラウドシリーズのデータベースから再度取得したデータではありません。セキュリティのために前回のデータも含めてデータの閲覧を禁止する場合は、ドキュメントの暗号化等によりブックの起動時のパスワード等を設定します。

3. 「マスター情報の配置」機能を利用してマスターを配置した場合、マスターの配置の範囲（補助コードや口座名などが配置されるべき箇所）に該当するセルは、マスターの配置結果に関係なく、当該セルの「表示形式」は「文字列」となります。そのため、当該セルに日付などの値を別途入力しても、文字列として扱われますので、このような場合は表示形式の変更を行う必要があります。



4. エクセルに入力した関数に誤りがあるとエラーとなり、関数を入力したセルにエラー値が表示されます。主なエラーは以下の通りです。エラーが表示された場合の対応方法については、エクセルの解説書等をご確認ください。

エラー値	読み	解説
#N/A	ノー・アサイン	数式等の演算の過程で、参照先のセルに値がない場合に表示されるエラー
#VALUE!	バリュウ	ワークシート関数の引数が正しくないために表示されるエラー
#REF!	リファレンス	数式等の演算の過程で、セル参照が無効な場合に表示されるエラー
#DIV/0!	ディバイド・パー・ゼロ	数式等の演算の過程で、0 で除算した場合に表示されるエラー
#NUM!	ナンバー	ワークシート関数の引数に指定されている数値が不適切な場合に表示されるエラー
#NAME?	ネーム	関数名が正しくない場合に表示されるエラー
#NULL!	ヌル	参照先の範囲の記述方法に誤りがある場合に表示されるエラー

## 「FXクラウドシリーズ」 マネジメントレポート設計ツール利用マニュアル

---

令和6年11月28日 第10版発行 ©TKC

著者 株式会社 TKC

発行者 飯塚 真規

発行所 株式会社 TKC

〒162-8585 東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル 5F

---

不許複製

※Windows は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

※Windows の正式名称は、Microsoft Windows Operating System です。

※EXCEL は、米国 Microsoft Corporation の米国及びその他の国における登録商標です。

※EXCEL の正式名称は、Microsoft EXCEL です。